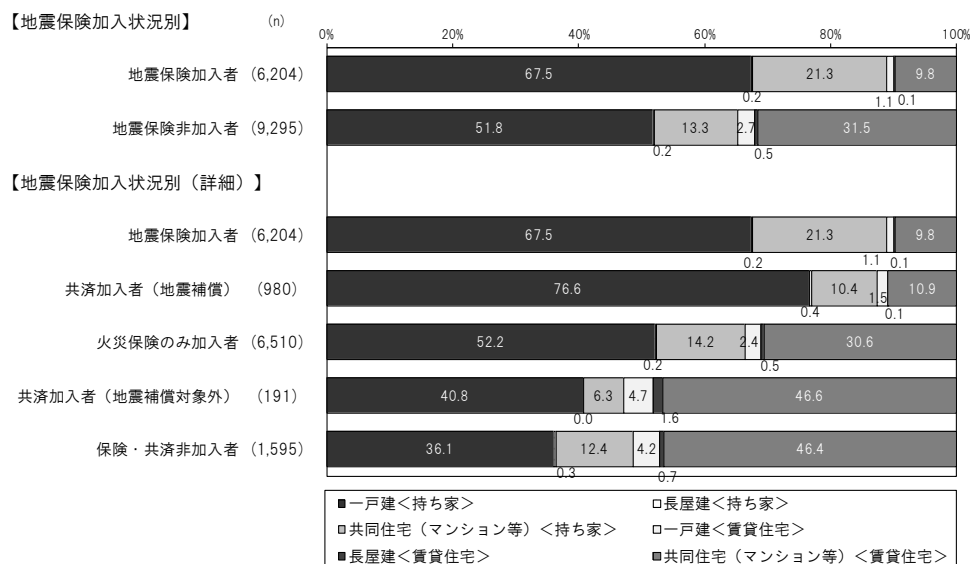


8. 住居建物の属性

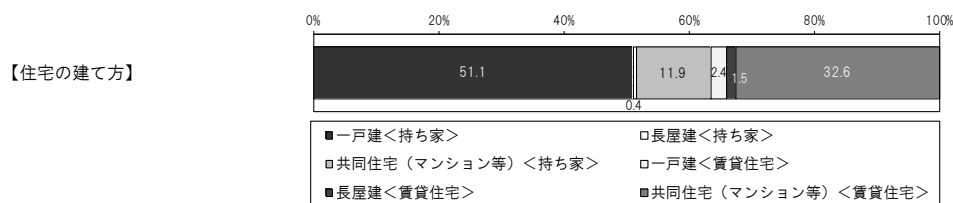
(1) 建て方

Q8. あなたの住んでいる住居建物の形態をお答えください。ただし、あなたご自身または配偶者がオーナーとして所有している賃貸物件にお住まいの場合は、＜持ち家＞としてお答えください。（ひとつだけ）



《参考》令和5年住宅・土地統計調査による住宅の建て方

*住宅の所有の関係「その他」と「不詳」を除いて集計した。



回答者の居住する住居建物の建て方をみると、地震保険加入者では「一戸建＜持ち家＞」が67.5%と最も高く、「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」が21.3%で次いでいる。地震保険非加入者は、「一戸建て＜持ち家＞」が51.8%と最も高く、「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」が31.5%で次いでいる。なお、地震保険加入者は『持ち家』の比率が89.0%であるのに対し、非加入者は65.3%と、約24ポイントの差がある。

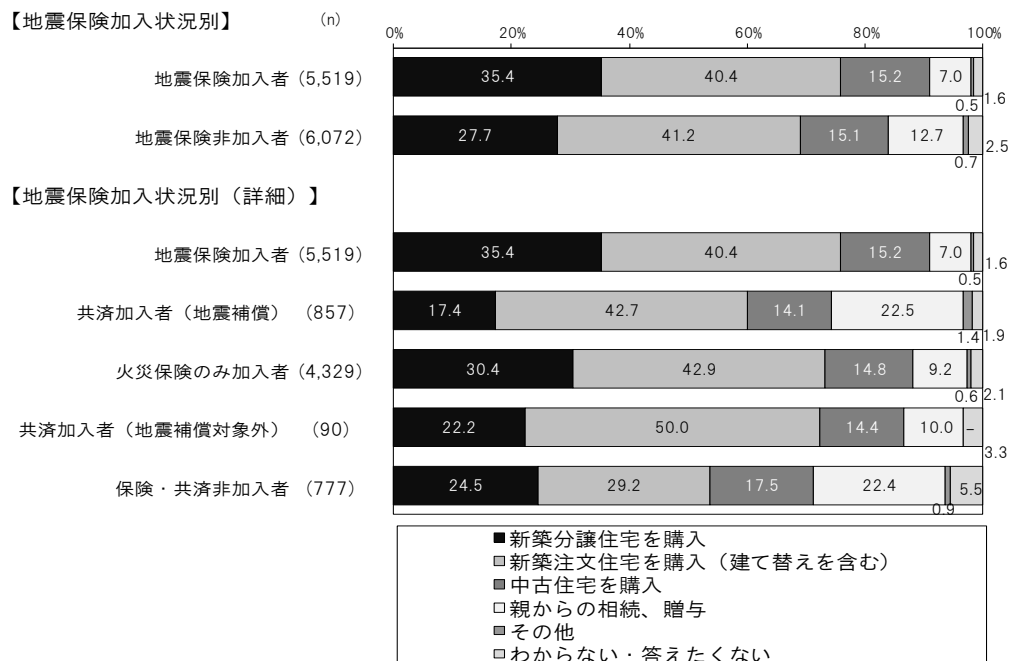
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「一戸建て＜持ち家＞」（76.6%）が他の区分を上回る。

《参考》として、令和5年住宅・土地統計調査による住宅の建て方の構成比率を示す。本調査のサンプルの方が「一戸建＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」の比率が高い。

(2) 取得方法

【Q8（建て方）で「一戸建く持ち家」「長屋建く持ち家」「共同住宅（マンション等）く持ち家」と回答した人に】

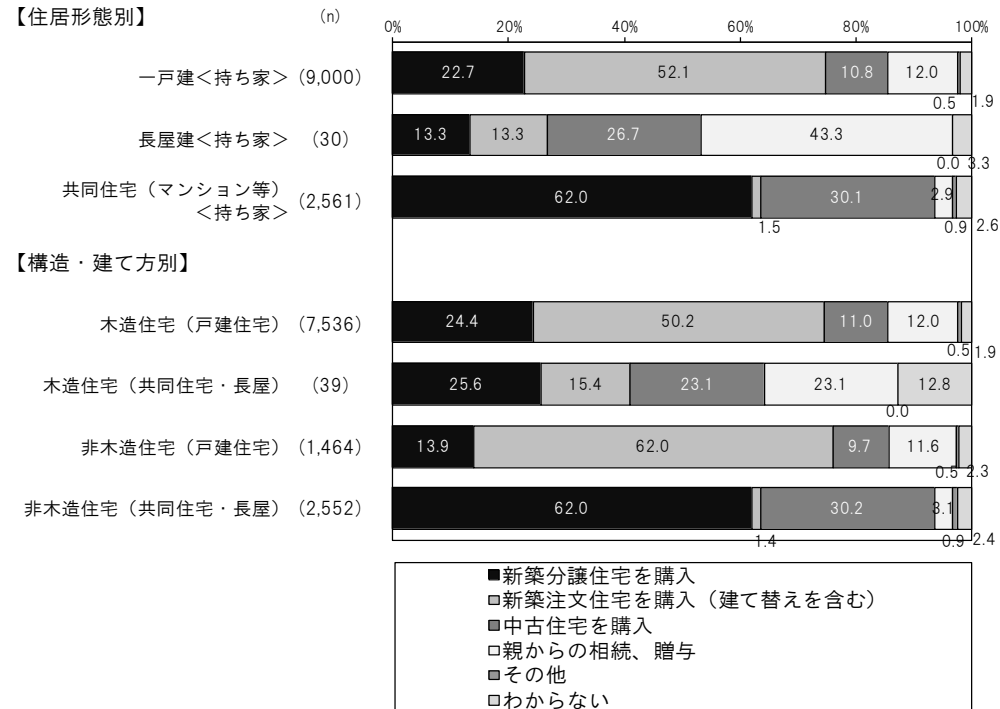
Q17. あなたの住んでいる住居建物を取得した方法をお答えください。（ひとつだけ）



『持ち家』居住者の住居建物の取得方法をみると、地震保険加入者では「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が40.4%と最も高く、「新築分譲住宅を購入」が35.4%で次いでいる。地震保険非加入者においても、「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が41.2%と最も高く、「新築分譲住宅を購入」が27.7%で次いでおり、この順番は同じである。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）で「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が半数を占め、他の区分をやや上回る。

《参考》住居建物の取得方法を建て方別／構造・建て方別に集計



《参考》は、建て方別と構造・建て方別に集計した結果である。

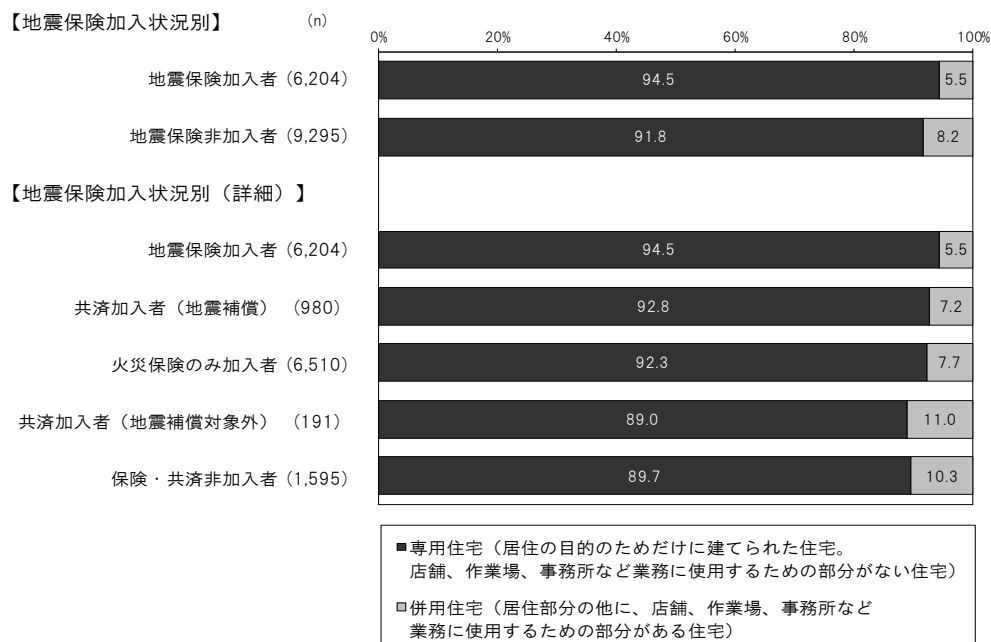
建て方別にみると、一戸建は「新築注文住宅を購入（建て替えを含む）」が52.1%と最も高く、共同住宅（マンション等）は「新築分譲住宅を購入」が62.0%と最も高い。

構造・建て方別にみると、木造住宅（戸建住宅）では「新築分譲住宅を購入」が24.4%であるのに対し、非木造住宅（戸建住宅）では13.9%となっており、住宅建物の取得方法に差がみられる。

(3) 建物の種類（用途）

①専用住宅・併用住宅の別

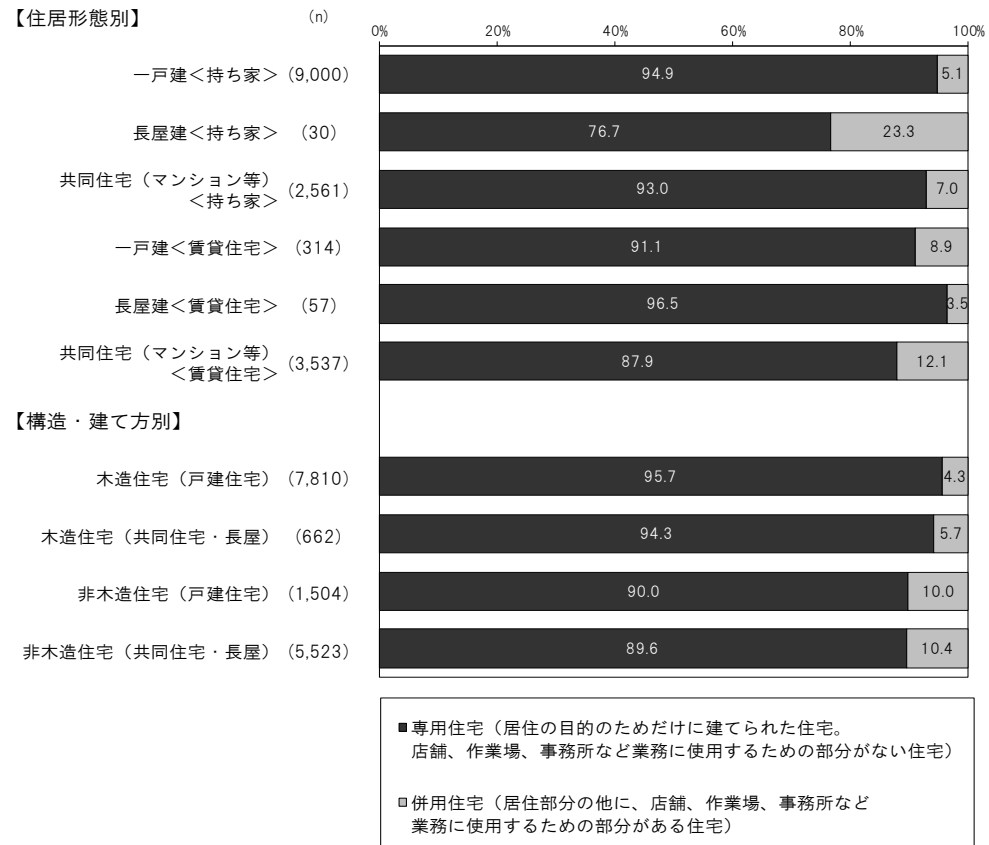
Q18. あなたの住んでいる住居建物の種類をお答えください。（ひとつだけ）



住居建物の種類（用途）をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「専用住宅」の比率が9割以上を占める。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）、保険・共済非加入者では「併用住宅」の比率が1割となっており、他の区分をやや上回る。

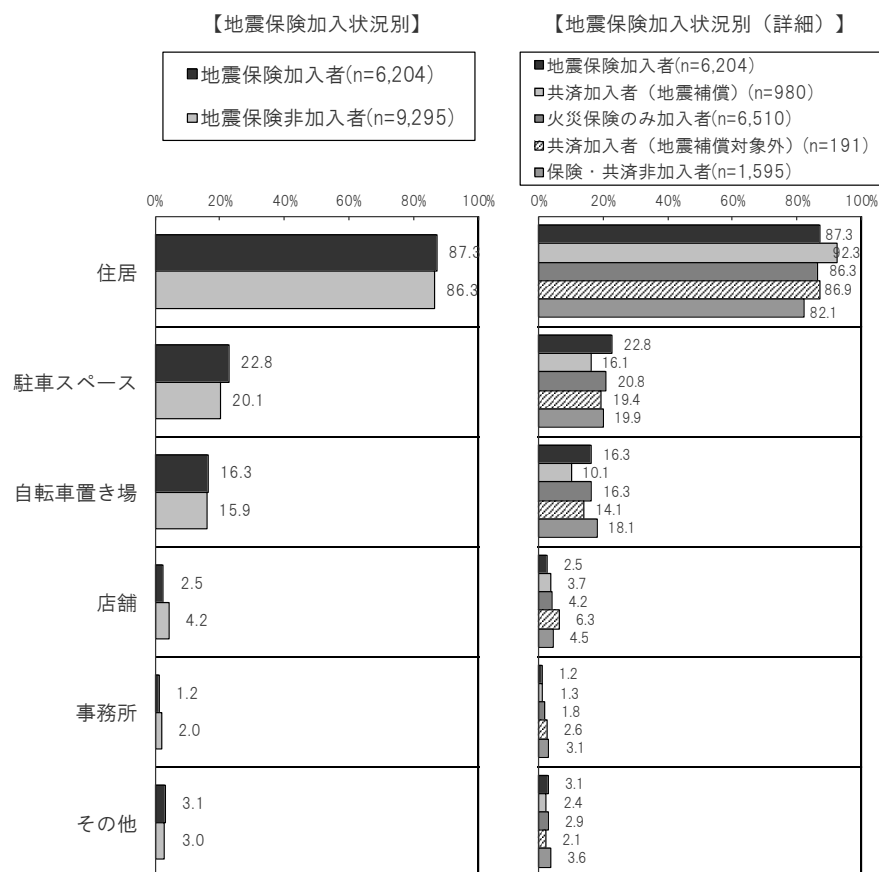
《参考》住居建物の種類を建て方別／構造・建て方別に集計



《参考》は、建て方別と構造・建て方別に集計した結果である。長屋建＜持ち家＞の「併用住宅」の比率が23.3%と、他の区分より高い。

②建物の1階部分の使われ方

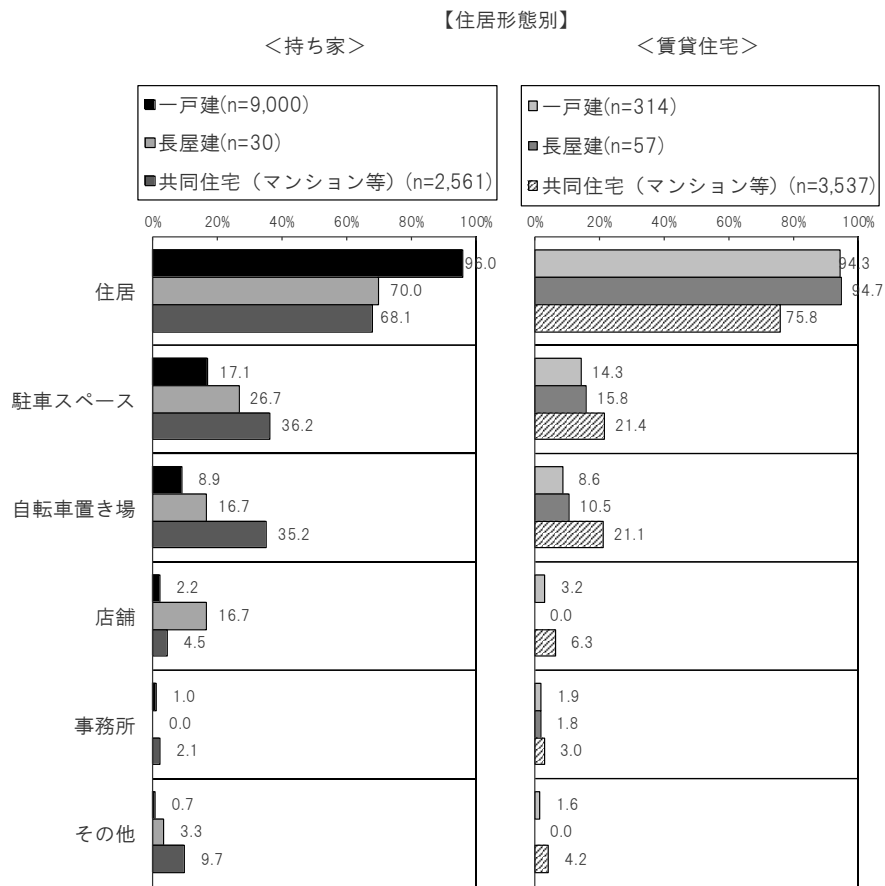
Q23. あなたの住んでいる住居建物の1階部分はどうに使われていますか。
該当する項目をすべてお答えください。（いくつでも）



住居建物の1階部分の使われ方をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「住居」の比率が8割台半ばで最も高く、以下、「駐車スペース」、「自転車置き場」と続く。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「住居」が8割以上を占める。

《参考》建物1階部分の使われ方を建て方別に集計



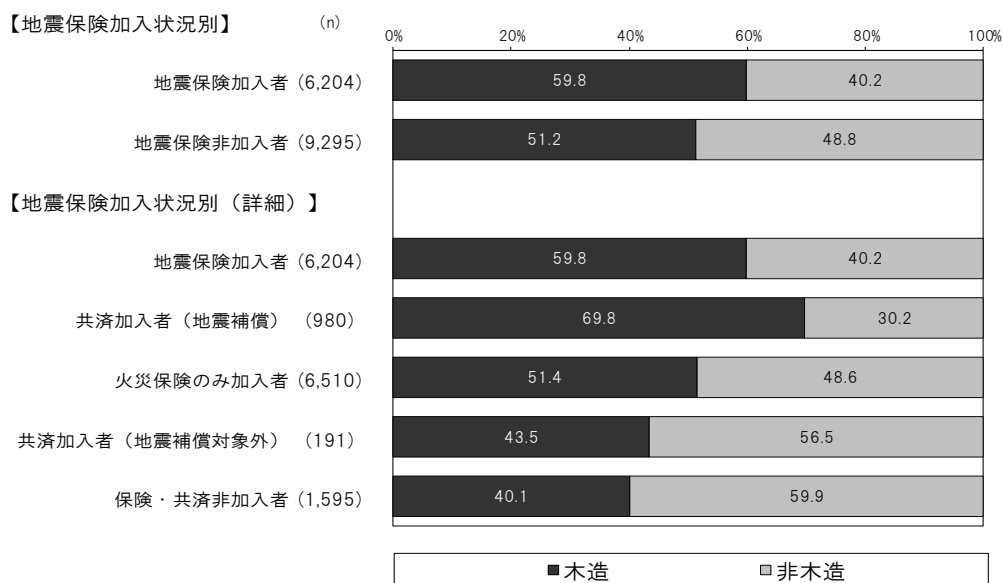
《参考》は、建て方別に集計した結果である。いずれにおいても「住居」の比率が最も高い。共同住宅（マンション等）<持ち家>では、「駐車スペース」（36.2%）や「自転車置き場」（35.2%）が他の区分を上回る。

（４）構造

①建物の主な構造

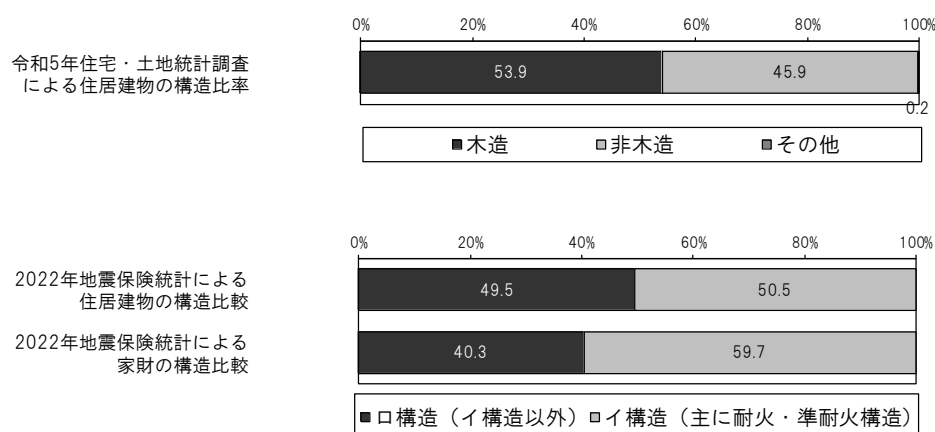
Q9. あなたの住んでいる住居建物の主な構造をお答えください。（ひとつだけ）

（２つ以上の構造から成る場合は、床面積の広い方の構造をお答えください。）。



*「木造」はアンケート回答における「在来工法」「木質プレハブ造」「ツーバイフォー、ツーバイシックス、ツーバイエイト（枠組壁工法）」「木造（詳細はわからない）」の合計、「非木造」は「鉄骨造、鉄骨プレハブ造」「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」「非木造（詳細はわからない）」の合計

《参考》令和５年住宅・土地統計調査および２０２２年度地震保険統計による住居建物の構造



住居建物の主な構造をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「木造」の比率が５割台となっている。

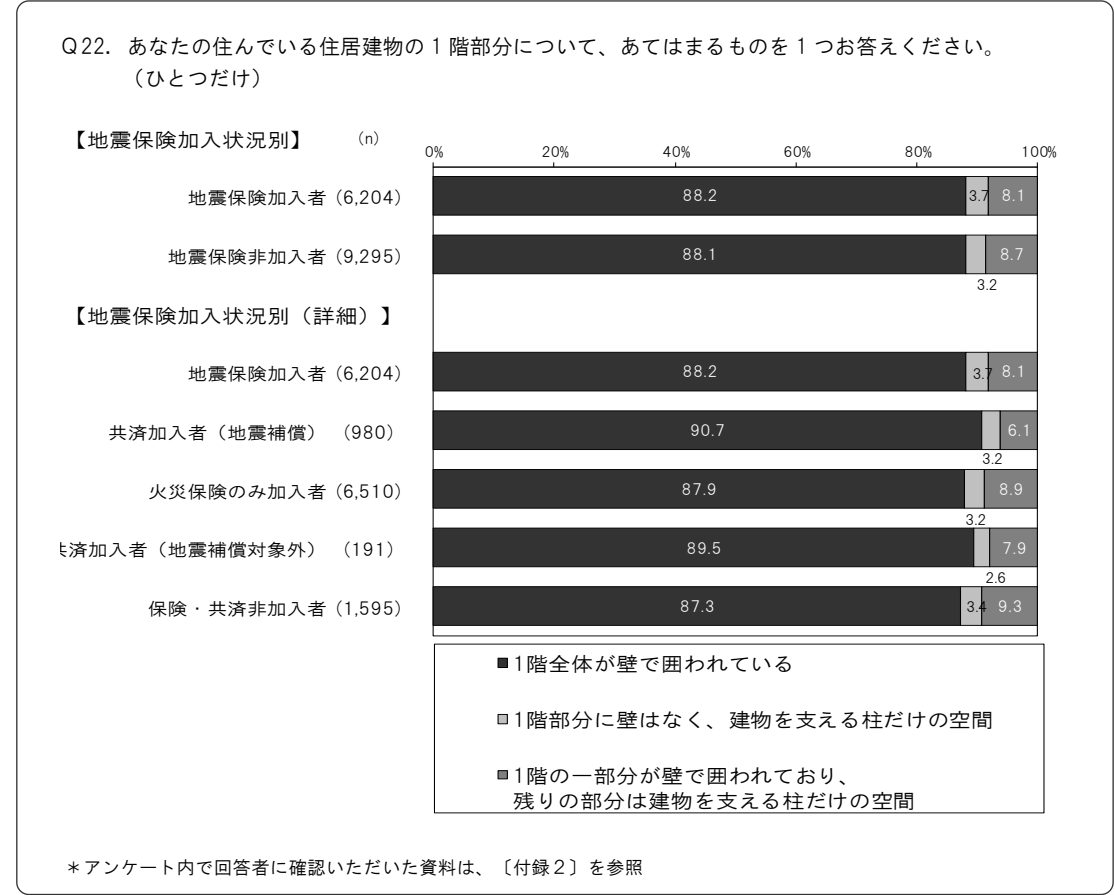
地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「木造」の比率が69.8%となっており、他の区分を大きく上回る。一方、保険・共済非加入者では「非木造」

の比率が59.9%となっており、他の区分を大きく上回る。

《参考》として、令和5年住宅・土地統計調査による住居建物の構造比率、および2022年度地震保険統計による住居建物と家財の構造比率を示す。

住宅・土地統計調査における住居建物の構造区分をみると、「木造」が53.9%で、本調査結果における地震保険加入者・非加入者の「木造」の比率とほぼ同傾向となっている。地震保険統計の住居建物の構造比率をみると、「ロ構造（イ構造以外）」（※イ構造：主に耐火・準耐火造）は49.5%となっている。

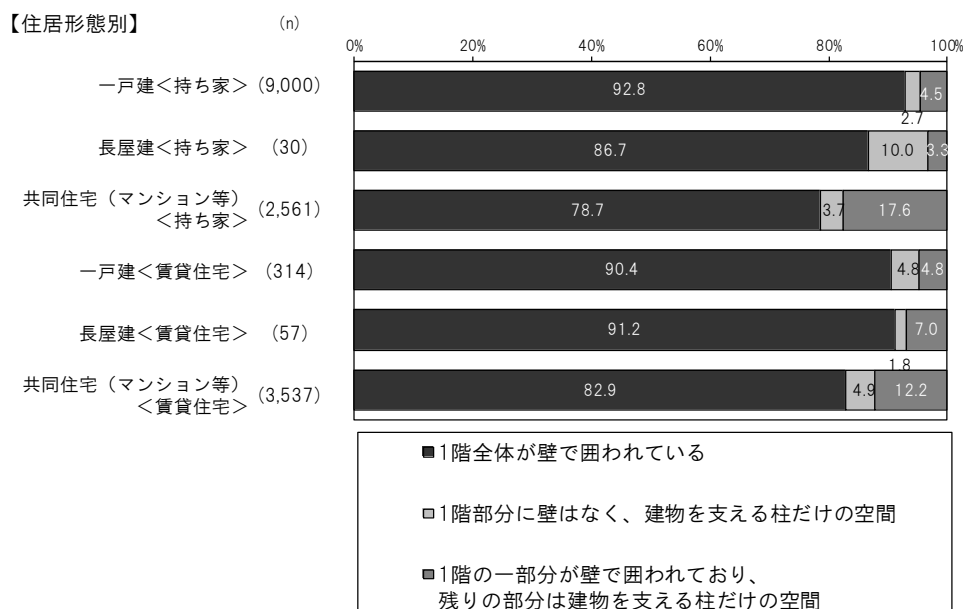
②建物の1階部分の構造



住居建物の1階部分の構造をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「1階全体が壁で囲われている」の比率が8割以上を占める。

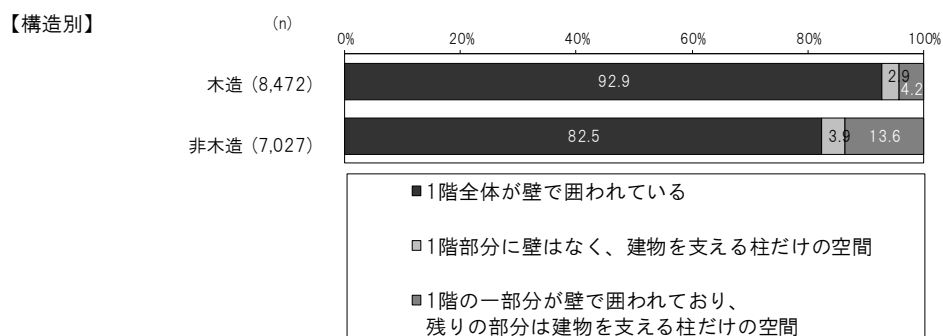
地震保険非加入者を詳細にみると、各区分ともに「1階の一部分が壁で囲われている」が最も高く、差はみられない。

《参考 1》建物 1 階部分の構造を住居形態別に集計



《参考1》は、建て方別に集計した結果である。一戸建と長屋建＜賃貸住宅＞では「1階全体が壁で囲われている」の比率が約9割を占め、他の区分を上回る。

《参考 2》建物 1 階部分の構造を住居建物の構造別に集計

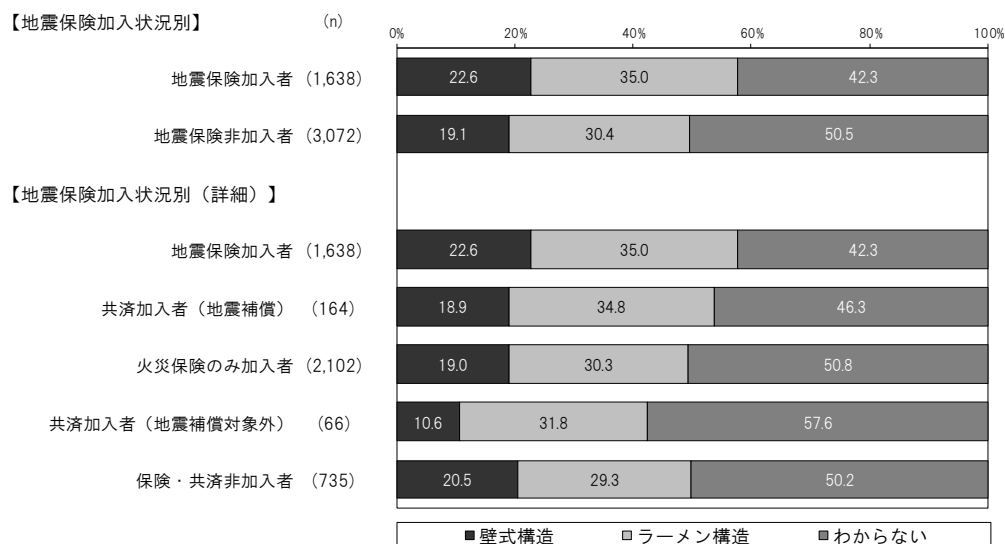


《参考2》は、住居建物の構造別に集計した結果である。「1階全体が壁で囲われている」の比率は、木造が92.9%、非木造が82.5%で、約10ポイントの差がある。

③ 共同住宅（マンション等）の構造形式

【Q8（建て方）で「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人のうち、Q9（構造）で「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」と回答した人に】

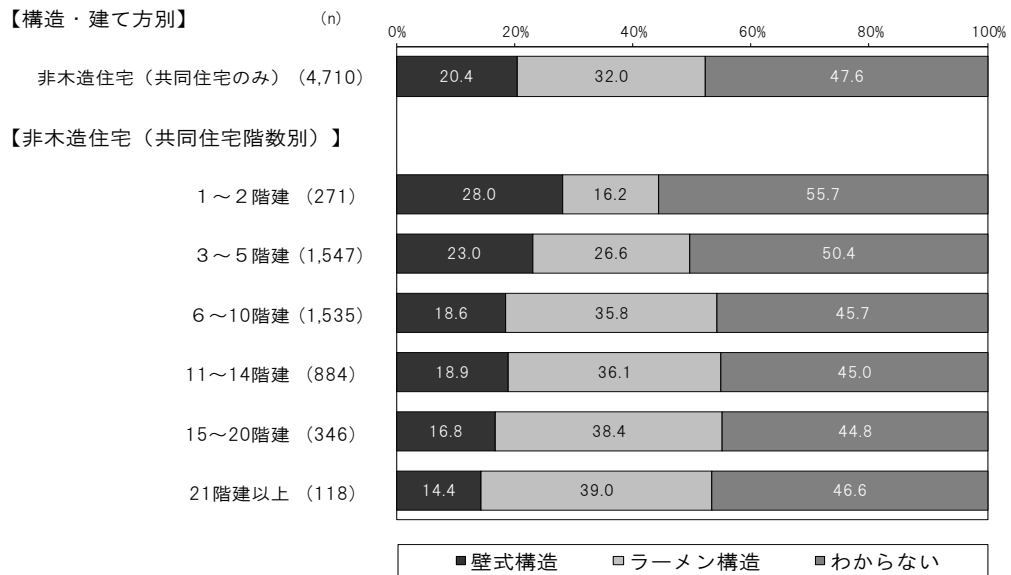
Q26. あなたの住んでいる共同住宅（鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造）の構造形式をお答えください。（ひとつだけ）



* アンケート内で回答者に確認いただいた資料は、【付録2】を参照

住居建物の構造が「鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造」の『共同住宅』居住者について、その構造形式をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「わからない」の比率が最も高い（地震保険加入者 42.3%、非加入者 50.5%）。また、地震保険加入者・非加入者ともに「ラーメン構造」の方が「壁式構造」よりも多い。

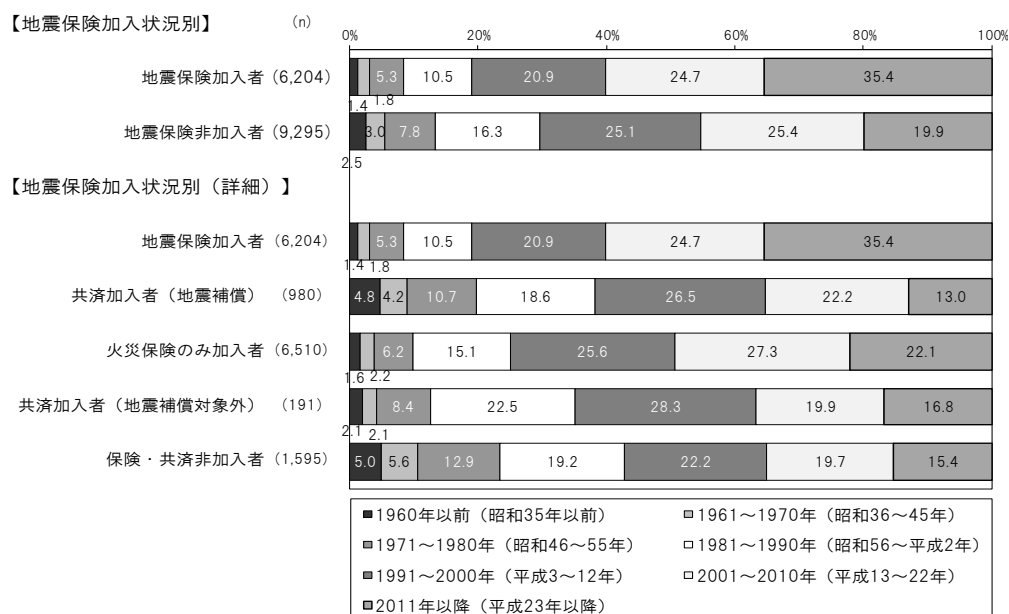
《参考》共同住宅建物の構造形式を住居建物の階数別に集計



《参考》は、共同住宅（マンション等）の構造形式を階数別に集計した結果である。階数が高い住宅になるほど、「ラーメン構造」の比率が高くなる傾向がみられる。

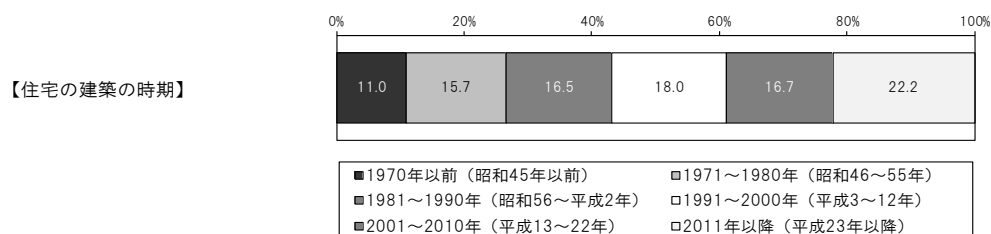
(5) 建築時期

Q10. あなたの住んでいる住居建物の建築時期をお答えください。(ひとつだけ)



《参考》令和5年住宅・土地統計調査による住宅の建築の時期

*住宅の建築時期の「不詳」を除いて集計した。



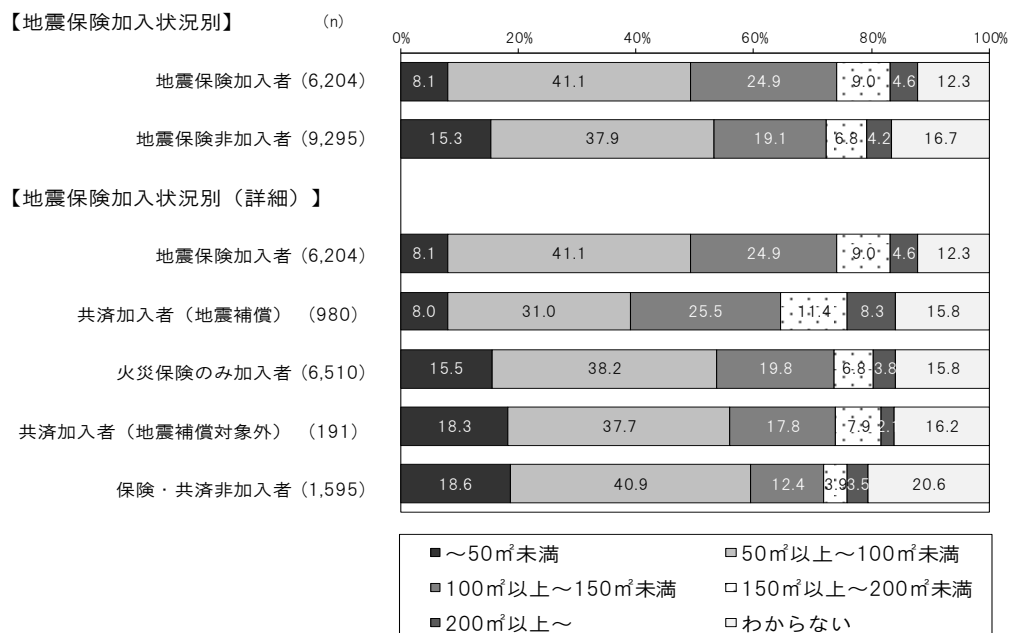
住居建物の建築時期をみると、地震保険加入者では「2001～2010年」と「2011年以降」を合わせた『2001年以降』が60.1% (=24.7%+35.4%)であるのに対し、非加入者では45.2% (=25.4%+19.9%)となっており、約15ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者では「2001～2010年」が27.3%となっており、他の区分より高い。

《参考》に、令和5年住宅・土地統計調査による建築時期の構成比率を示す。住宅・土地統計調査では、『2001年以降』は38.9% (=16.7%+22.2%)となっている。

(6) 延べ床面積

Q11. あなたのお住まい（住宅）の延べ床面積をお答えください。（ひとつだけ）



住居建物の延べ床面積をみると、地震保険加入者は「50㎡以上～100㎡未満」が41.1%と最も高く、「100㎡以上～150㎡未満」が24.9%で次いでいる。非加入者においても「50㎡以上～100㎡未満」（37.9%）が最も高く、「100㎡以上～150㎡未満」が19.1%で次いでいる。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）では「100㎡以上～150㎡未満」が25.5%と、他の区分を上回る。一方、保険・共済非加入者では、「50㎡以上～100㎡未満」が40.9%と最も高く、他の区分を上回る。

(7) 階数

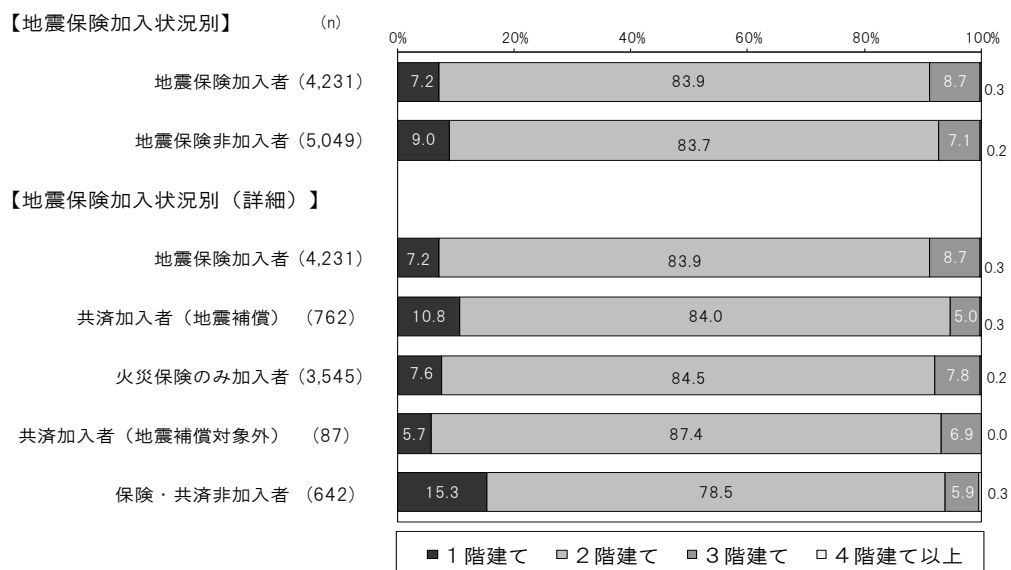
①一戸建の地上階数

【Q8（建て方）で「一戸建＜持ち家＞」「一戸建＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q20_1. あなたの家は何階建てですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。

なお、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地上＞（数字入力）

＜回答結果より、建物階数を区分した結果を掲載＞



『一戸建』の地上階数をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「2階建て」の比率が最も高く、8割超を占める。地震保険非加入者について詳細にみると、保険・共済非加入者で「1階建て」が他の区分を上回る。

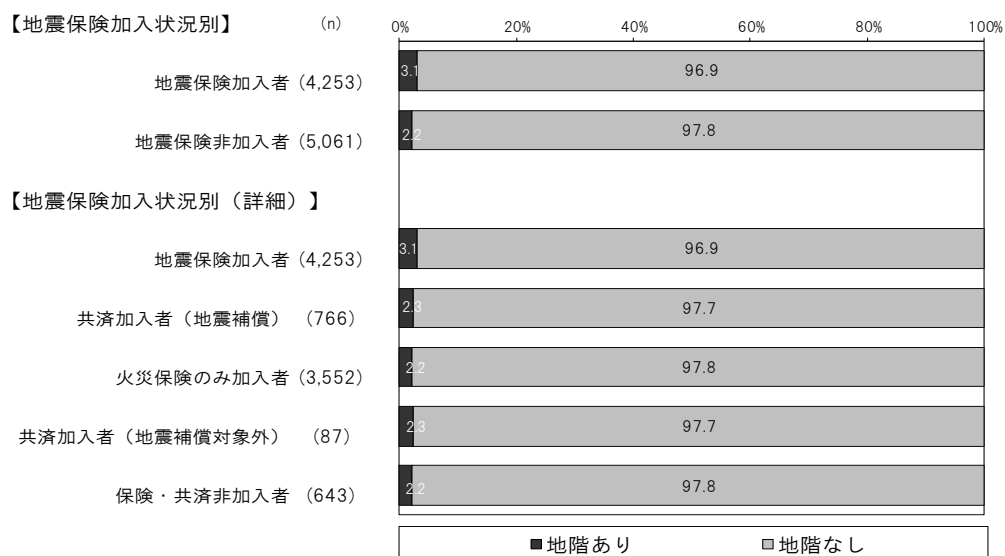
②一戸建の地階の有無

【Q8（建て方）で「一戸建＜持ち家＞」「一戸建＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q20_2. あなたの家は何階建てですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。

なお、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地下＞（数字入力）

＜回答結果より、地下階数の有無を区分した結果を掲載＞



『一戸建』の地階の有無をみると、地震保険加入者・非加入者ともに「地階なし」が9割以上を占める。地震保険非加入者について詳細にみても、各区分で大きな差はない。

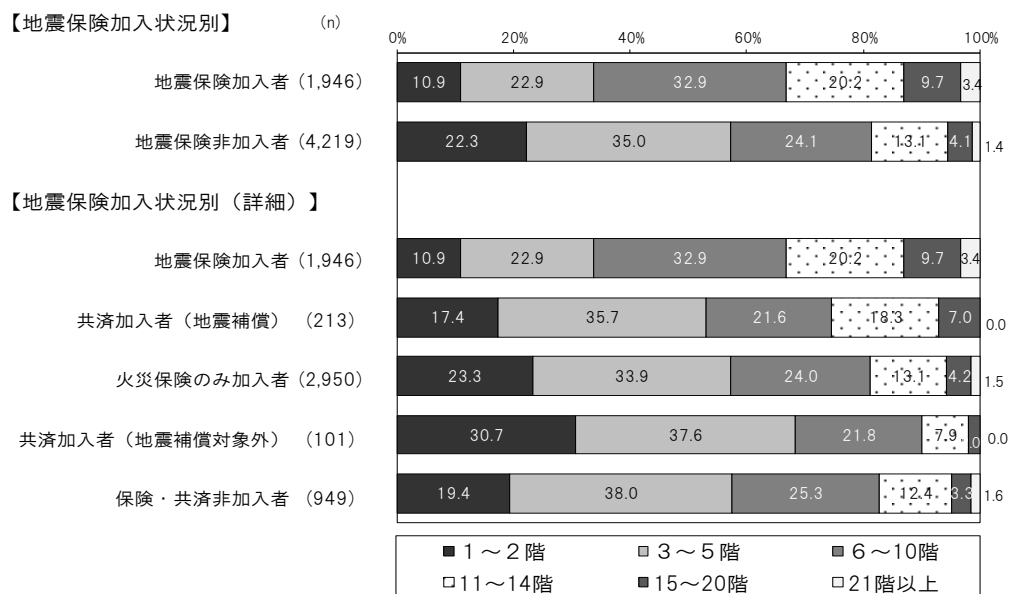
③共同住宅・長屋建の地上階数

【Q8（建て方）で「長屋建＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「長屋建＜賃貸住宅＞」

「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q19_1. あなたは何階建ての建物の何階にお住まいですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。また、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地上＞（数字入力）

＜回答結果より、建物階数を区分した結果を掲載＞



『共同住宅・長屋建』の地上階数をみると、地震保険加入者では「6～10階」が32.9%と最も高い。一方、地震保険非加入者では「3～5階」が35.0%と最も高い。また、「1～2階」の比率は、地震保険加入者が10.9%、非加入者が22.3%で、約11ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「1～2階」が30.7%となっており、他の区分を上回る。

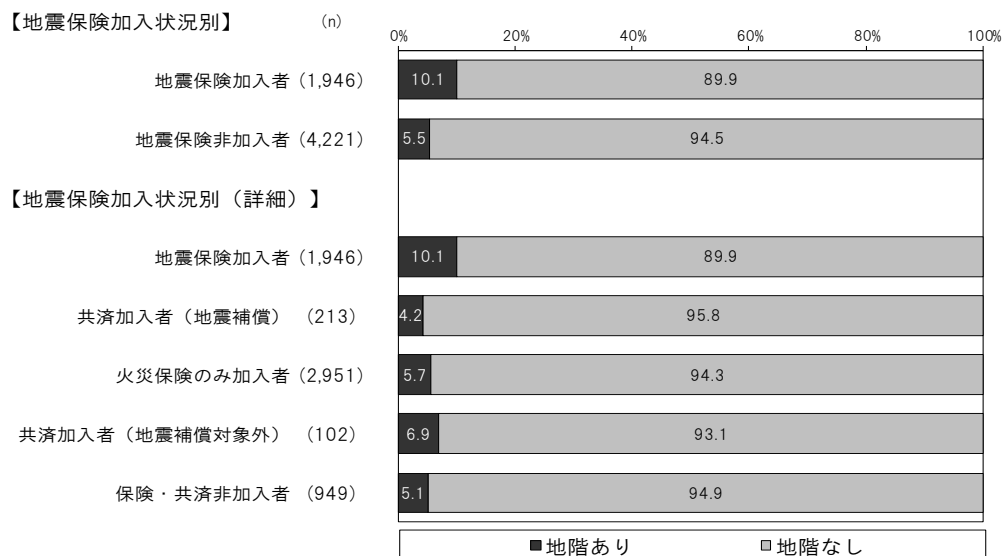
④共同住宅・長屋建の地階の有無

【Q8（建て方）で「長屋建＜持ち家＞」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」「長屋建＜賃貸住宅＞」

「共同住宅（マンション等）＜賃貸住宅＞」と回答した人に】

Q19_2. あなたは何階建ての建物の何階にお住まいですか。地上階数と地下階数に分けてお答えください。また、該当する階数がない場合はゼロでお答えください。＜地下＞（数字入力）

＜回答結果より、地下階数の有無を区分した結果を掲載＞



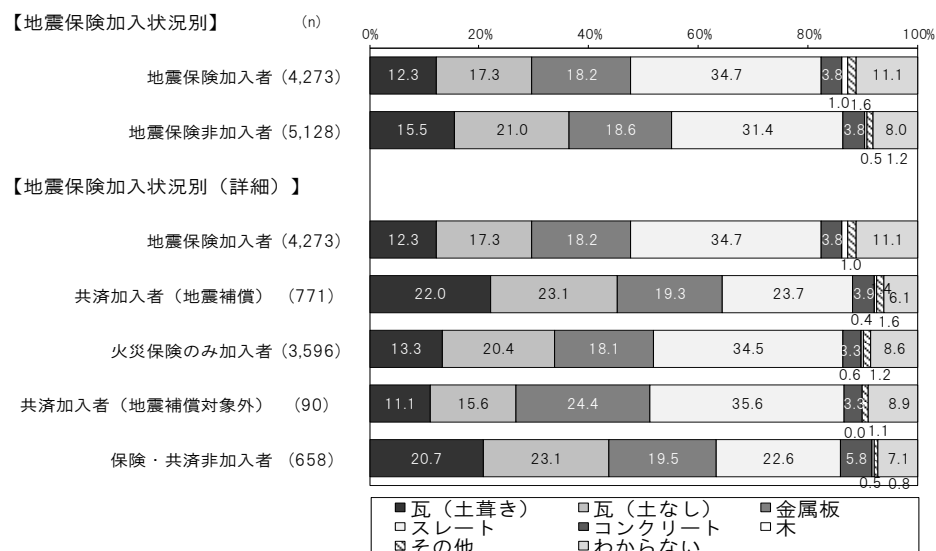
『共同住宅・長屋建』の地階の有無をみると、地震保険加入者では「地階あり」が10.1%であるのに対し、非加入者では5.5%となっており、約5ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「地階あり」が6.9%となっており、他の区分をやや上回る。

(8) 屋根の種類

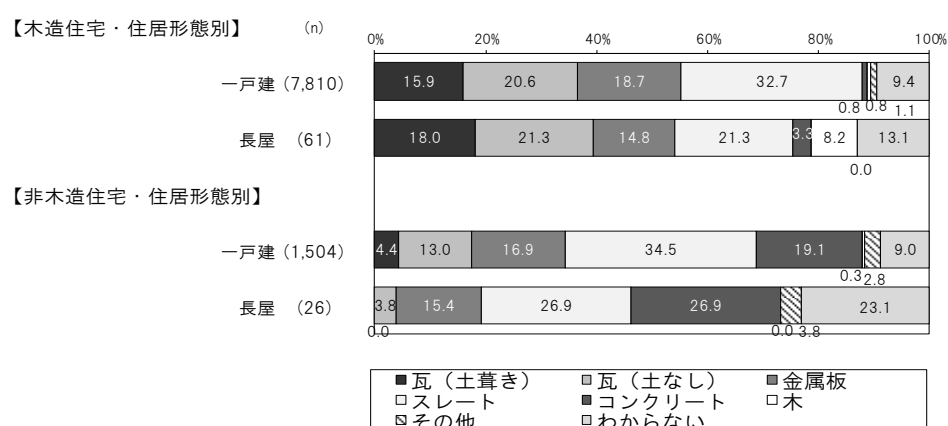
【Q8（建て方）で「一戸建」「長屋建」と回答した人に】

Q24. あなたの家の屋根の種類をお答えください。（ひとつだけ）



『一戸建』と『長屋建』の屋根の種類は、地震保険加入者・非加入者ともに「スレート」が3割強で最も高く、以下、「瓦（土なし）」と「金属板」がそれぞれ約2割を占める。地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）、保険・共済非加入者では「瓦（土葺き）」が約2割となっており、他の区分を上回る。

《参考》屋根の種類を構造・建て方別に集計

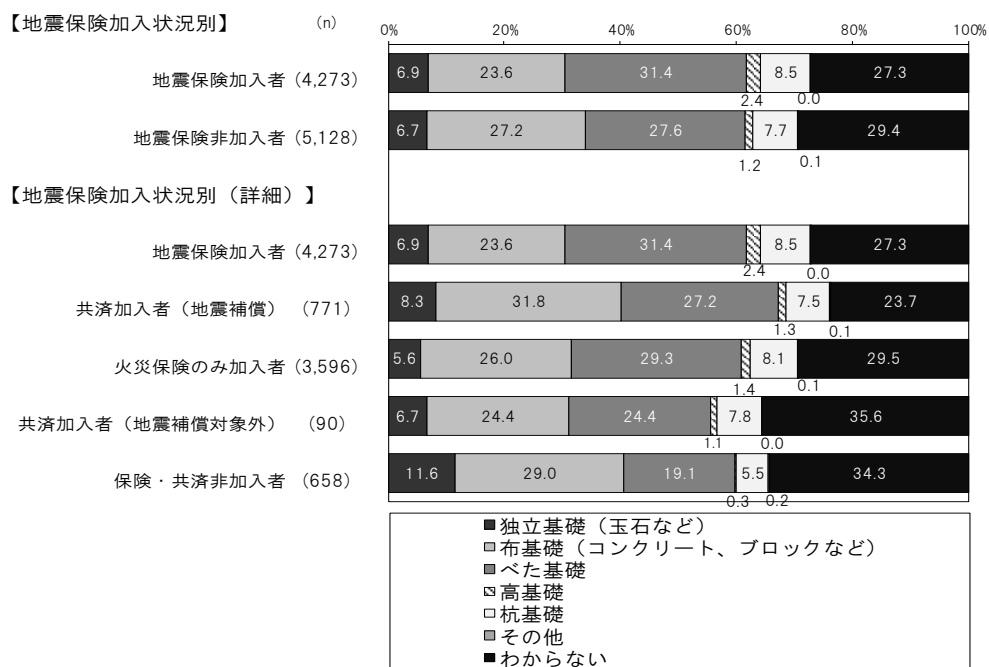


《参考》は、構造・建て方別に集計した結果である。木造、非木造ともに一戸建では「スレート」の比率が約3割と最も高い。一方、非木造の長屋は「コンクリート」と「スレート」がそれぞれ26.9%と最も高い。

(9) 基礎の種類

【Q8（建て方）で「一戸建」「長屋建」と回答した人に】

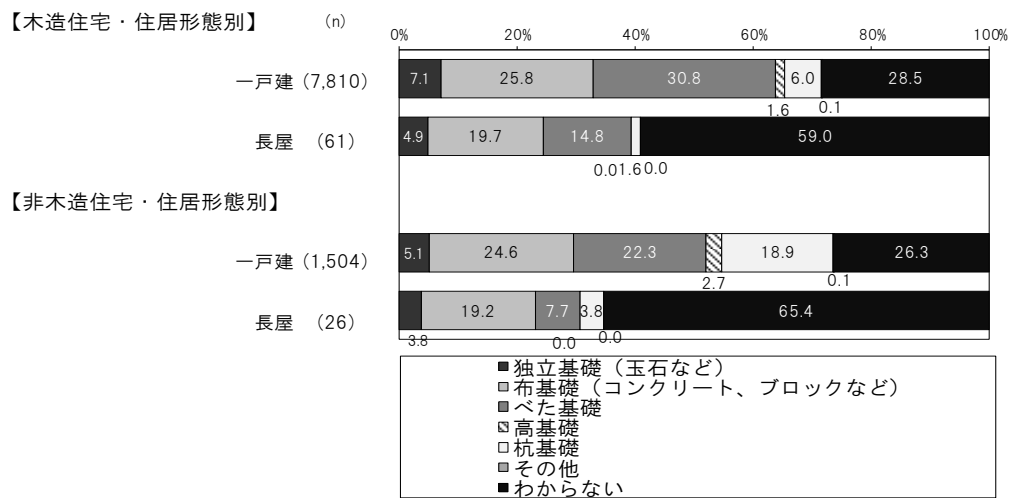
Q25. あなたの家の基礎の種類をお答えください。（ひとつだけ）



『一戸建』と『長屋建』の基礎の種類は、地震保険加入者・非加入者ともに「ベタ基礎」の比率が3割前後と最も高い。また、「わからない」がいずれの区分においても3割近くになっている。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）は「布基礎（コンクリート、ブロックなど）」が他の区分を上回る。

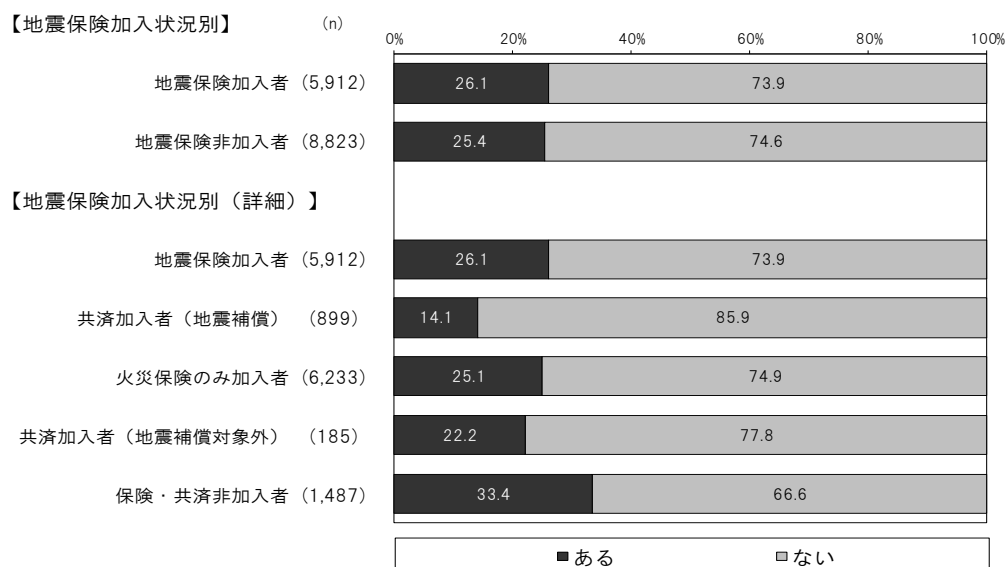
《参考》基礎の種類を構造・建て方別に集計



《参考》は、構造・建て方別に集計した結果である。一戸建ては、木造では「べた基礎」、非木造では「布基礎」の比率が高い。長屋は、「わからない」が半数以上を占める。

(10) エレベーターの有無

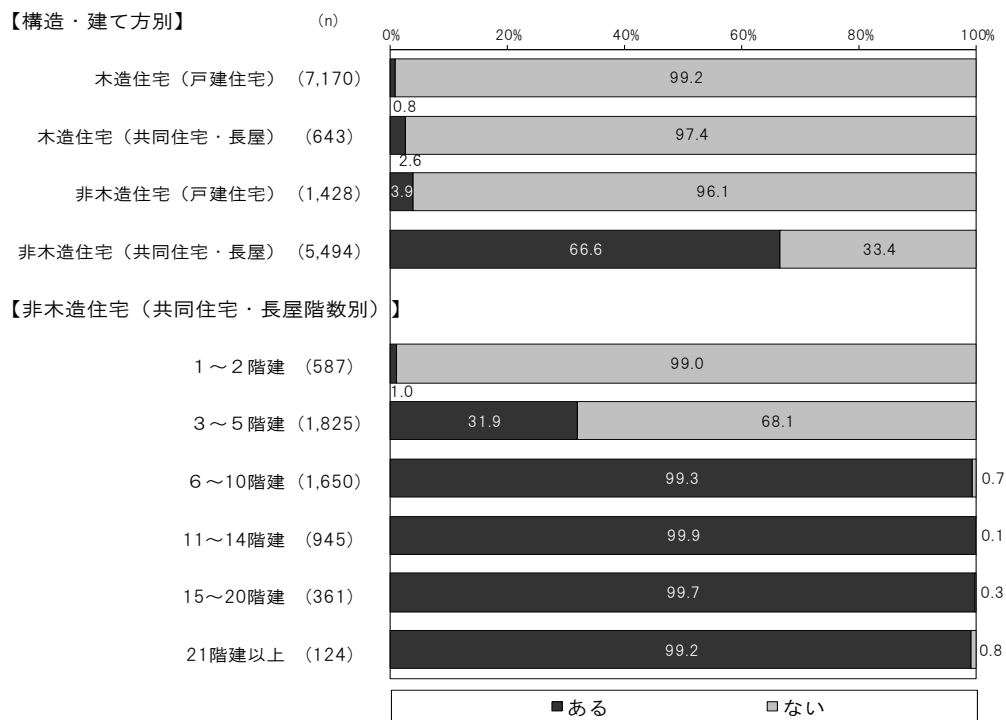
【Q19（共同住宅建物の階数）または Q20（戸建の階数）で 2 階建以上と回答した人に】
Q21. あなたの住んでいる住居建物にエレベーターはありますか。（ひとつだけ）



住居建物の地上階数が 2 階以上の方にエレベーターの有無を質問した。「（エレベーターが）ある」は、地震保険加入者は 26.1%、非加入者は 25.4% で差はみられない。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）は「（エレベーターが）ある」が 14.1% で、他の区分を下回る。一方、保険・共済非加入者は「（エレベーターが）ある」が 33.4% で、他の区分を上回る。

《参考》エレベーターの有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計

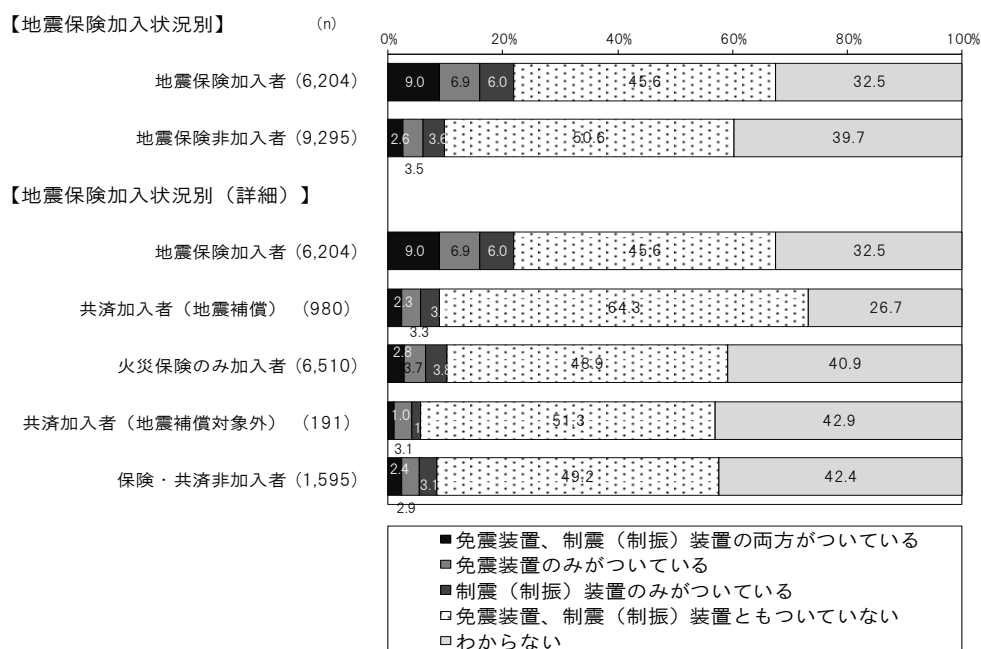


《参考》は、住居建物の構造・建て方・階数別に集計した結果である。

非木造住宅の建て方別にみると、「（エレベーターが）ある」の比率は、戸建住宅が3.9%、共同住宅・長屋は66.6%である。また、非木造住宅（共同住宅）について、建物階数別にみると、「（エレベーターが）ある」の比率は、3～5階建は31.9%、6階建て以上はほぼ100%である。

(11) 免震装置、制震（制振）装置の有無

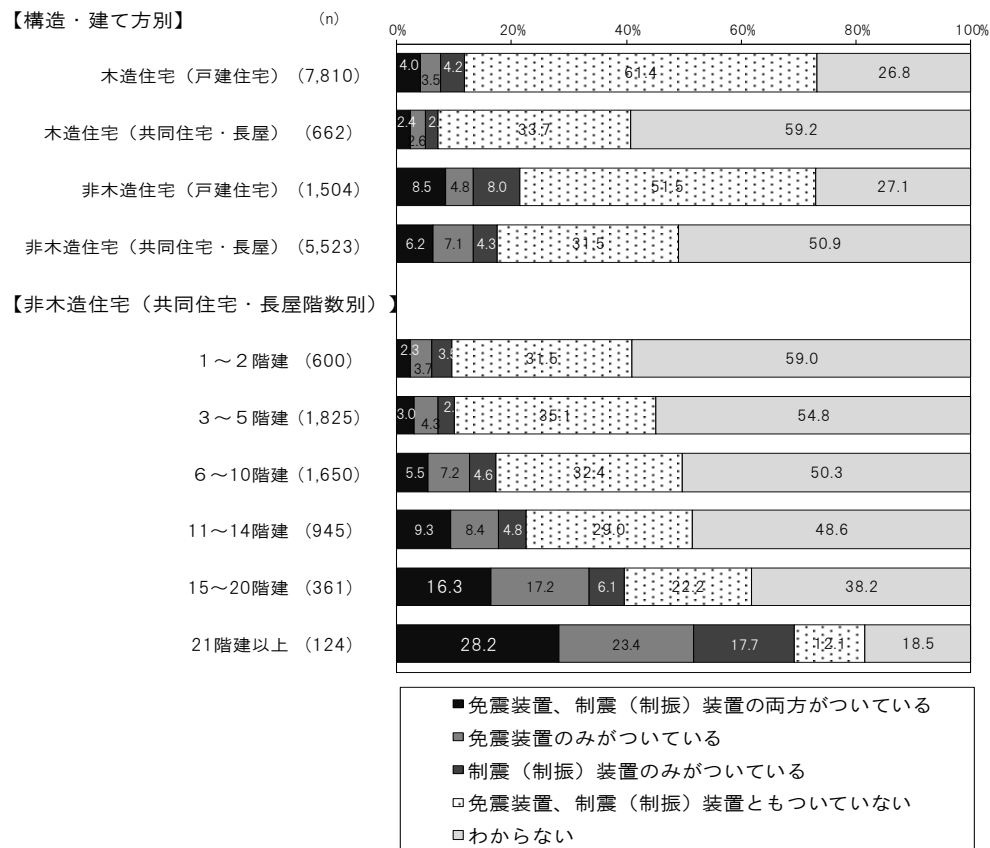
Q28. あなたの住んでいる住居建物に免震装置、制震（制振）装置はついていますか。（ひとつだけ）



住居建物に免震装置、制震（制振）装置がついているかを質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「免震装置、制震（制振）装置ともついていない」の比率が最も高く、約5割を占める。また、「わからない」がいずれの区分でも3割台を占め、やや多くなっている。「免震装置、制震（制振）装置の両方がついている」の比率は、地震保険加入者が9.0%、非加入者が2.6%で、約6ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「免震装置、制震（制振）装置ともついていない」が最も高い。

《参考》免震装置、制震（制振）装置の有無を構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

木造住宅（戸建住宅）では「免震装置、制震（制振）装置ともついていない」の比率が61.4%で、他の区分を大きく上回る。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、階数が高くなるほど免震装置や制震（制振）装置がついている比率が高くなっており、21階建て以上では、「免震装置、制震（制振）装置の両方がついている」が28.2%を占める。

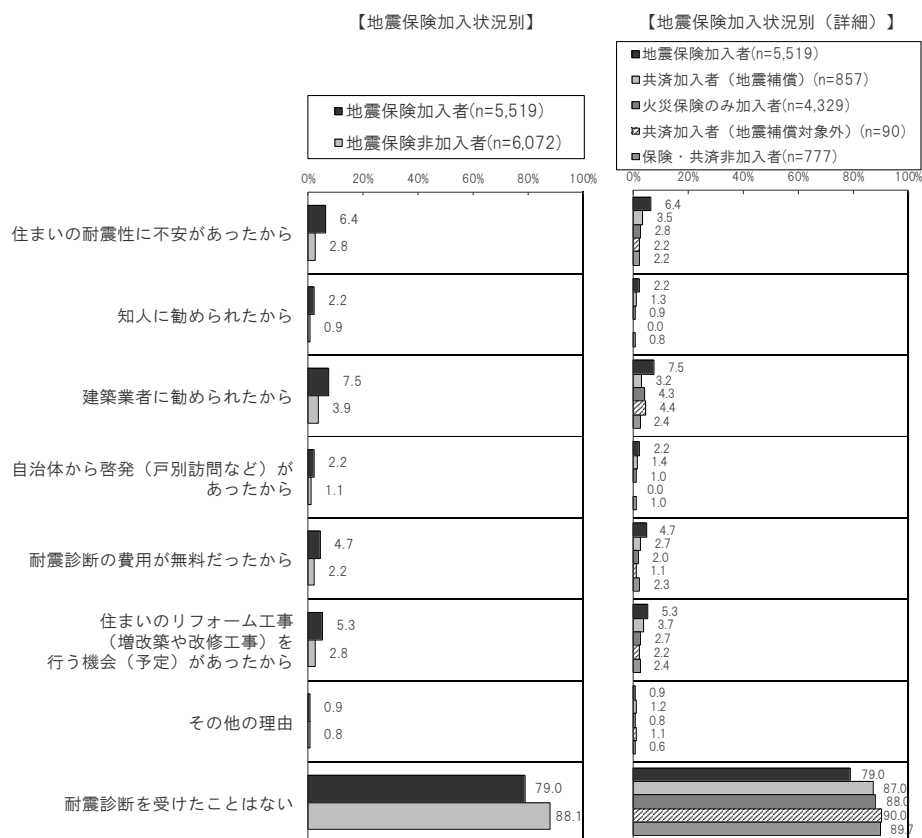
(12) 耐震診断

① 耐震診断の受診経験と受診理由

【Q8（建て方）で「一戸建く持ち家」「長屋建く持ち家」「共同住宅（マンション等）く持ち家」と回答した人に】

Q29. あなたが住んでいる住居建物について、耐震診断を受けたことはありますか。

受けたことのある方は、受けた理由（きっかけ）についてお答えください。（いくつでも）



『持ち家』居住者に耐震診断の受診経験・受けた理由（きっかけ）を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「耐震診断を受けたことはない」が最も高く、それぞれ79.0%、88.1%である。耐震診断を受けた理由をみると、地震保険加入者、非加入者ともに「建築業者に勧められたから」が最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、いずれの区分においても「耐震診断を受けたことはない」が最も高い。

《参考》耐震診断の受診経験を住居建物の構造・建て方・階数別に集計

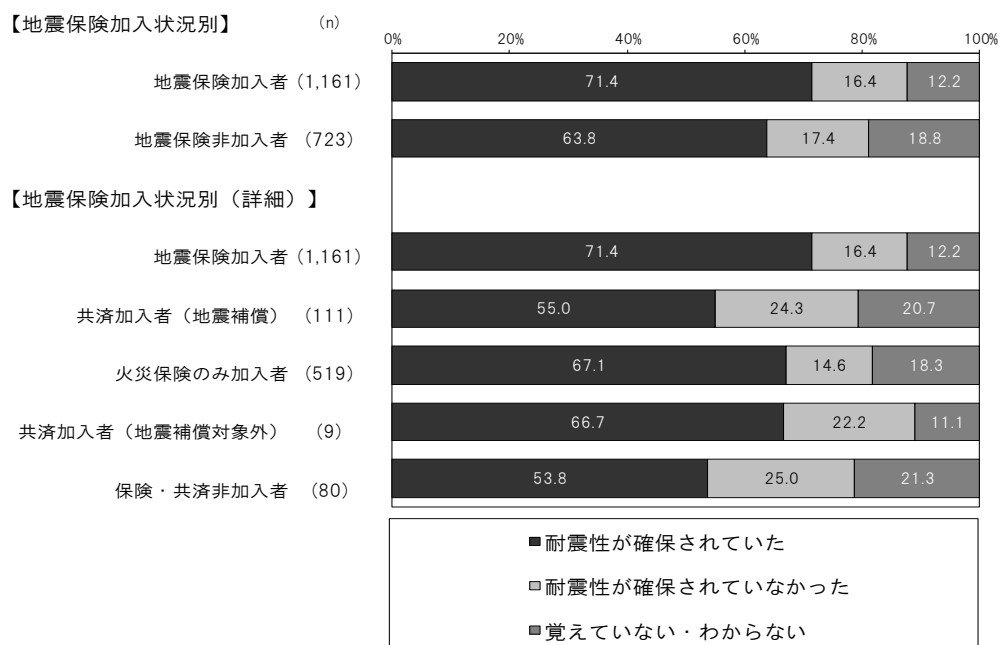


《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。木造住宅（共同住宅・長屋）では「耐震診断を受けたことはない」の比率が71.8%で、他の区分をやや下回る。

②耐震診断の結果

【Q29（耐震診断の受診経験）で、何らかの受診した理由（きっかけ）を回答した人に】

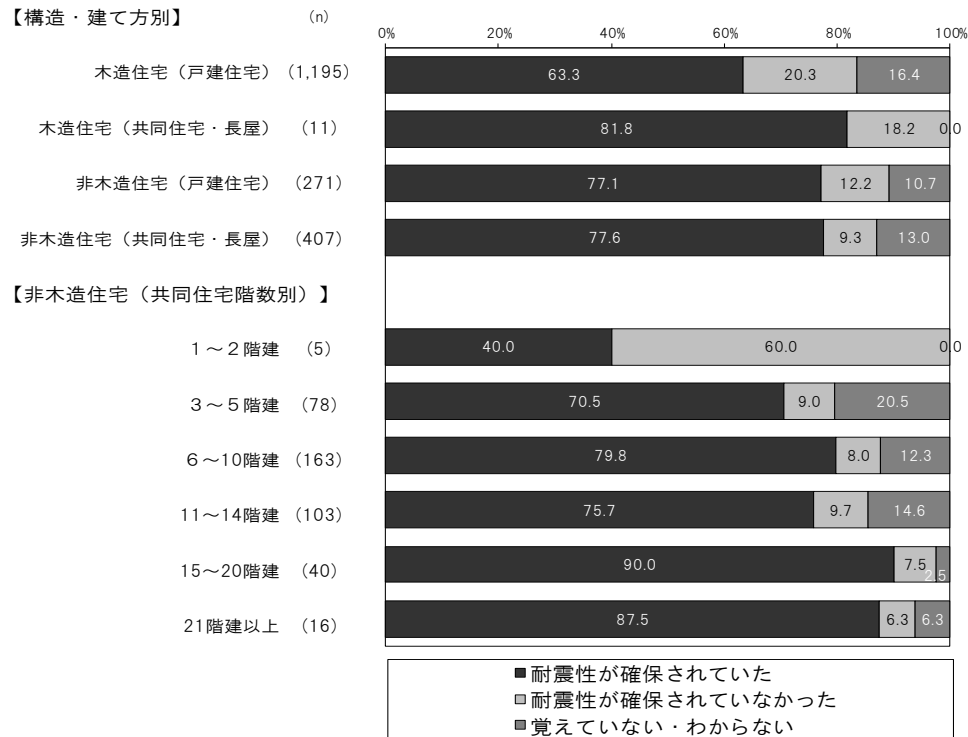
Q30. あなたが耐震診断を受けた際の、結果についてお答えください。（ひとつだけ）



耐震診断を受けた方にその結果を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「耐震性が確保されていた」が7割前後を占める一方で、「耐震性が確保されていなかった」も1割半ば存在する。また、「覚えていない・わからない」も1～2割前後存在する。

地震保険非加入者を詳細にみると、火災保険のみ加入者、共済加入者（地震補償対象外）は「耐震性が確保されていた」が6割半ばで、他の区分を上回る。（※共済加入者（地震補償対象外）はサンプルが少ない点に留意）

《参考》耐震診断の結果を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

木造住宅（戸建住宅）では「耐震性が確保されていた」が63.3%であるのに対し、非木造住宅（戸建住宅）では77.1%となっており、約14ポイントの差がある。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、15階以上では「耐震性が確保されていた」が約9割を占め、他の区分を上回る。

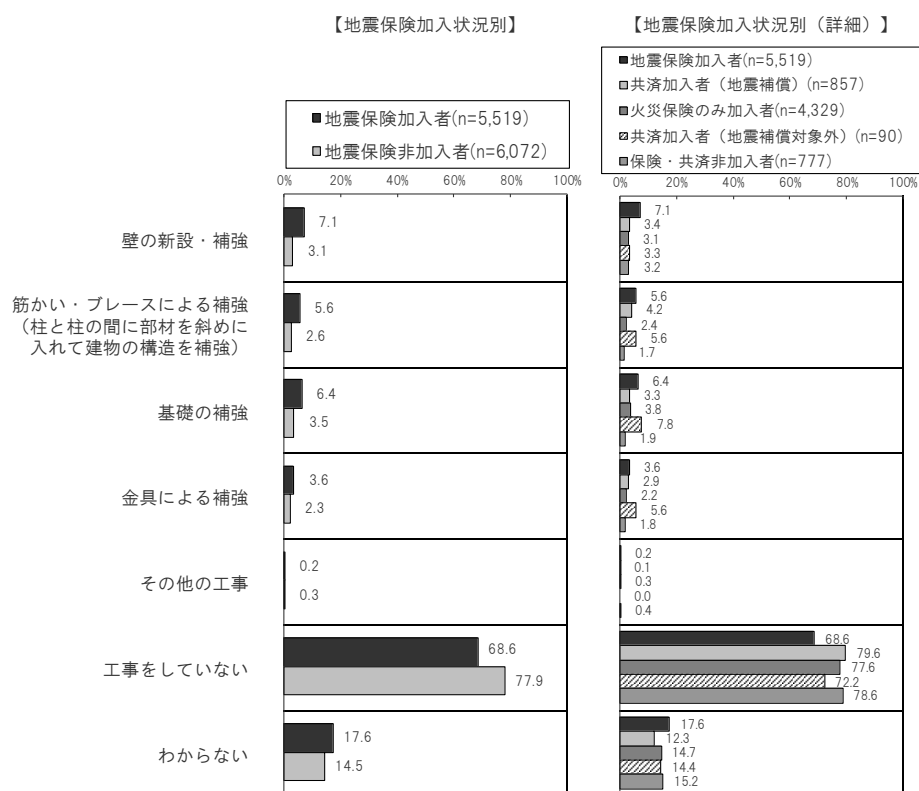
(13) 耐震改修工事・耐震補強工事

①耐震改修工事・耐震補強工事の施工有無

【Q8（建て方）で「一戸建<持ち家>」「長屋建<持ち家>」「共同住宅（マンション等）<持ち家>」と回答した人に】

Q31. あなたの住んでいる住居建物は耐震改修工事・耐震補強工事を行いましたか。

行った場合は工事内容について、該当する項目すべてをお選びください。（いくつでも）

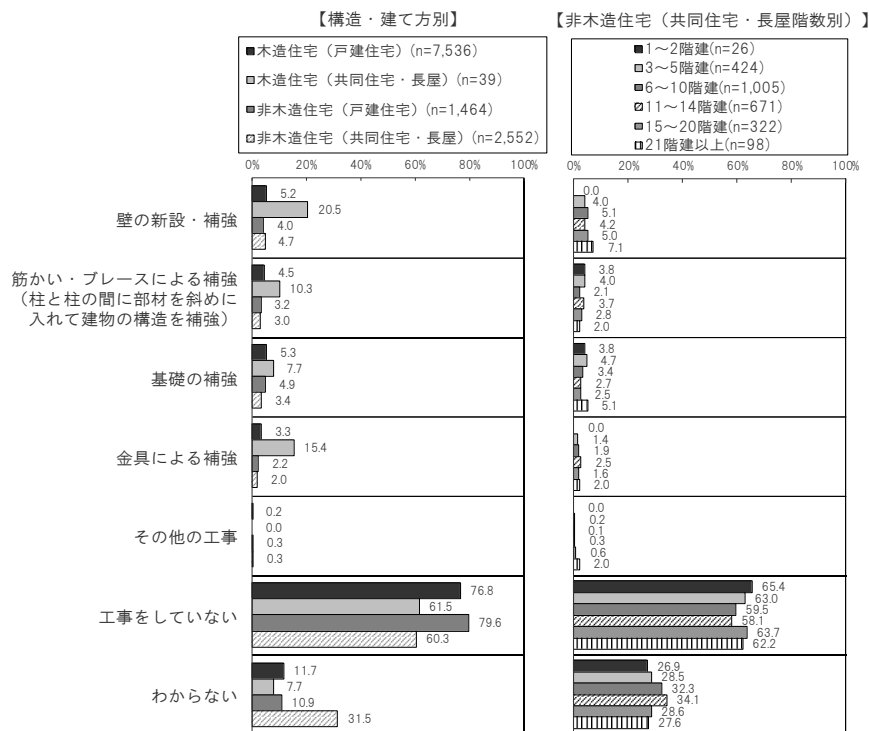


『持ち家』居住者に耐震改修工事・耐震補強工事の施工状況を質問した。「工事をしていない」の比率は、地震保険加入者が68.6%、地震保険非加入者が77.9%で、約9ポイント差がある。なお、15%の前後の人が「わからない」と回答している。

耐震改修工事・耐震補強工事の内容をみると、地震保険加入者では「壁の新設・補強」、非加入者では「基礎の補強」が最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「工事をしていない」が72.2%で、他の区分をやや下回る。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の施行有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計



《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。

戸建住宅では構造を問わず「工事をしていない」の比率が8割弱となっており、共同住宅・長屋を上回る。また、「わからない」の比率は、非木造住宅（共同住宅・長屋）が他の区分よりも高い。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみても、回答結果に大きな差はない。

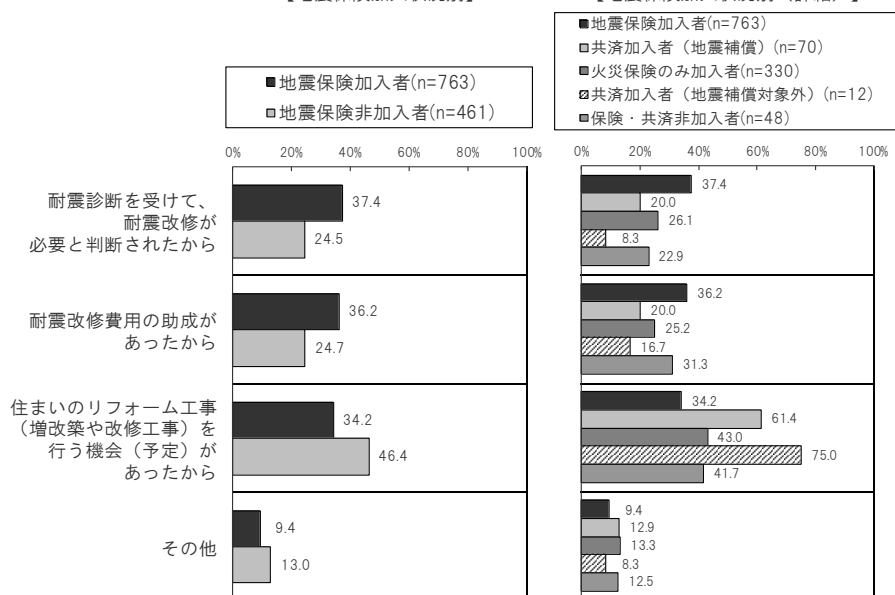
②耐震改修工事・耐震補強工事の施工理由

【Q31（耐震改修工事・耐震補強工事の実施有無）で、「壁の新設・補強」「筋かい・ブレースによる補強」「基礎の補強」「金具による補強」「その他の工事」と回答した人に】

Q32. 耐震改修工事・耐震補強工事をした理由（きっかけ）は何ですか。（いくつでも）

【地震保険加入状況別】

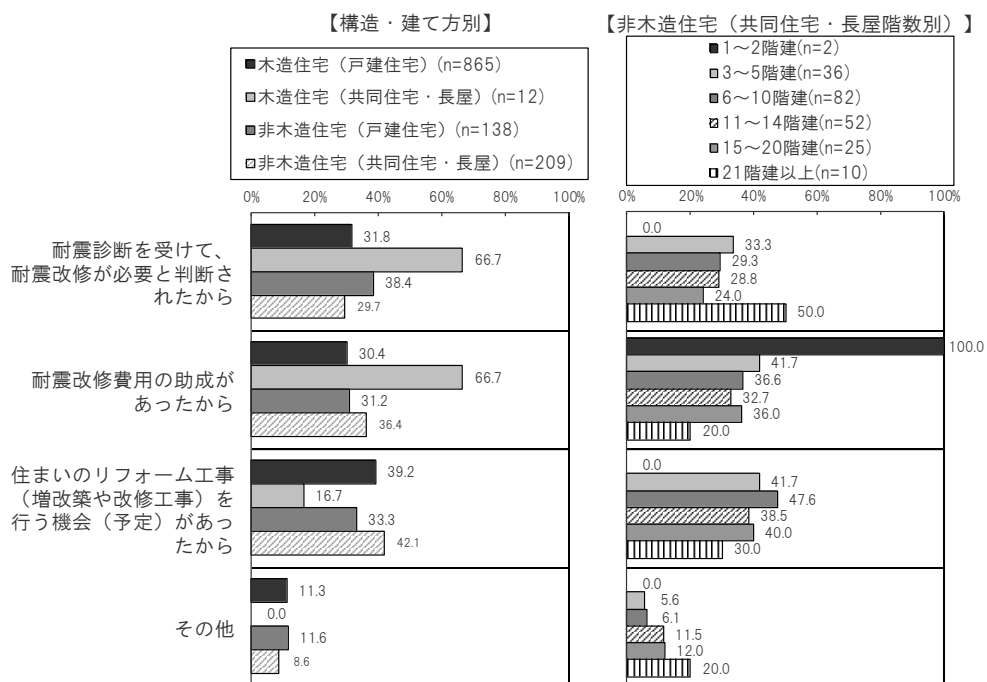
【地震保険加入状況別（詳細）】



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に実施理由（きっかけ）を質問した。地震保険加入者では「耐震診断を受けて、耐震改修が必要と判断されたから」が最も高く37.4%となっている。一方、地震保険非加入者では「住まいのリフォーム工事（増改築や改修工事）を行う機会（予定）があったから」が46.4%と最も高い。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償）と共済加入者（地震補償対象外）では「住まいのリフォーム工事（増改築や改修工事）を行う機会（予定）があったから」が6割を超えており、他の区分を大きく上回る。（※共済加入者（地震補償対象外）はサンプルが少ない点に留意）

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の施工理由を住居建物の構造・建て方・階数別に集計

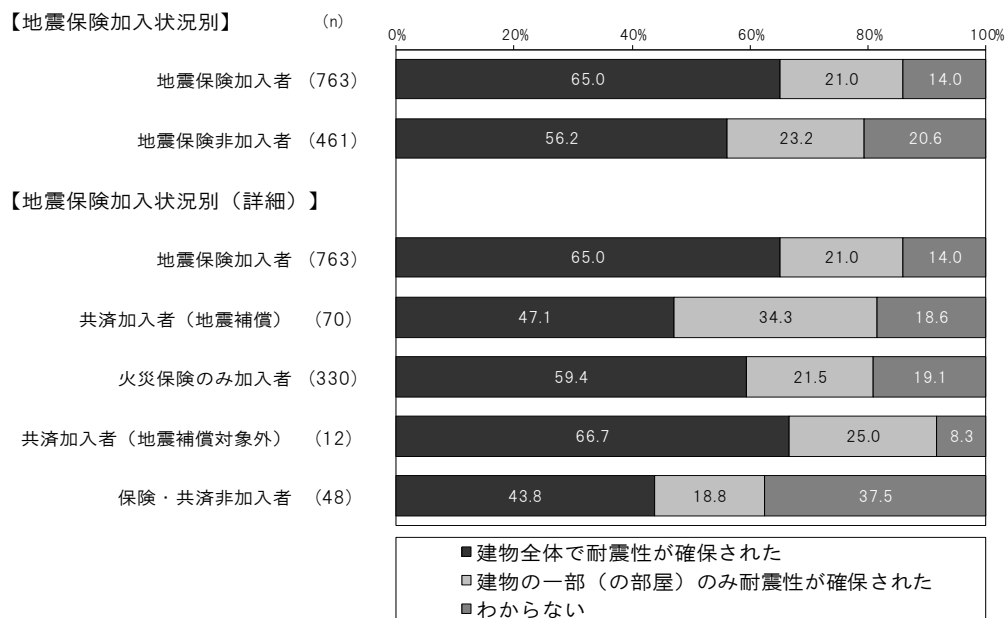


《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

③耐震改修工事・耐震補強工事後の耐震性

【Q31（耐震改修工事・耐震補強工事の実施有無）で、「壁の新設・補強」「筋かい・ブレースによる補強」「基礎の補強」「金具による補強」「その他の工事」と回答した人に】

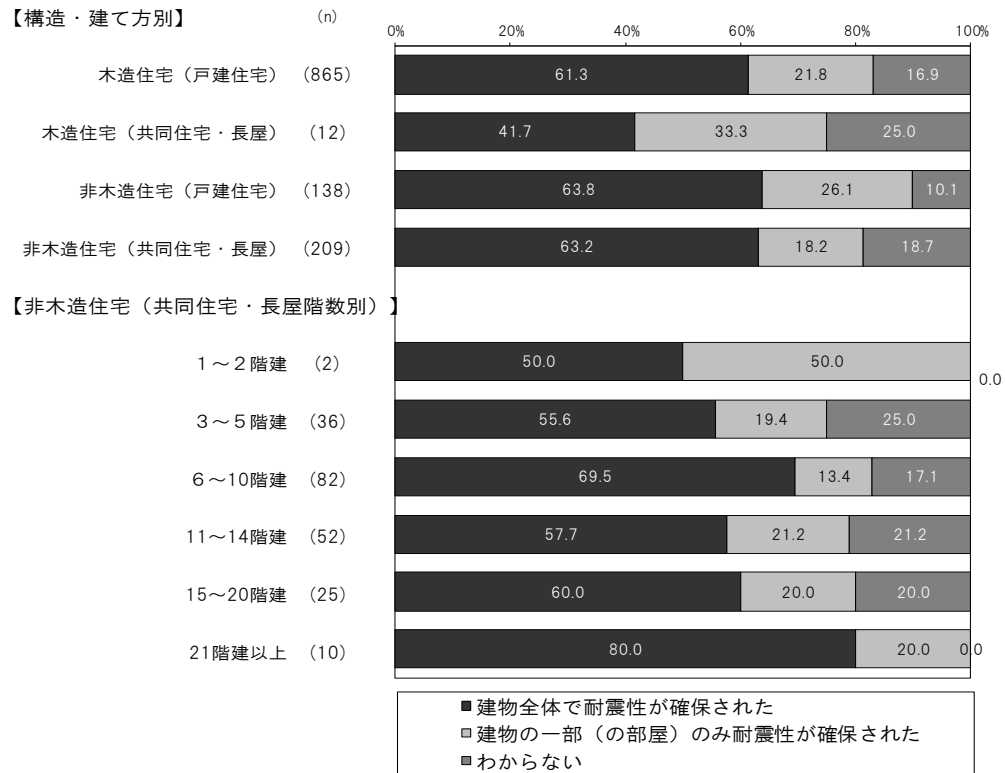
Q33. 耐震改修工事・耐震補強工事をした結果、住居建物の耐震性は確保されましたか。（ひとつだけ）



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に、施工後の耐震性を質問した。「建物全体で耐震性が確保された」の比率は、地震保険加入者が65.0%、非加入者が56.2%である。いずれの区分においても「わからない」が2割前後存在する。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済未加入者で「わからない」の比率が高い。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事後の住居建物の耐震性を構造・建て方・階数別に集計

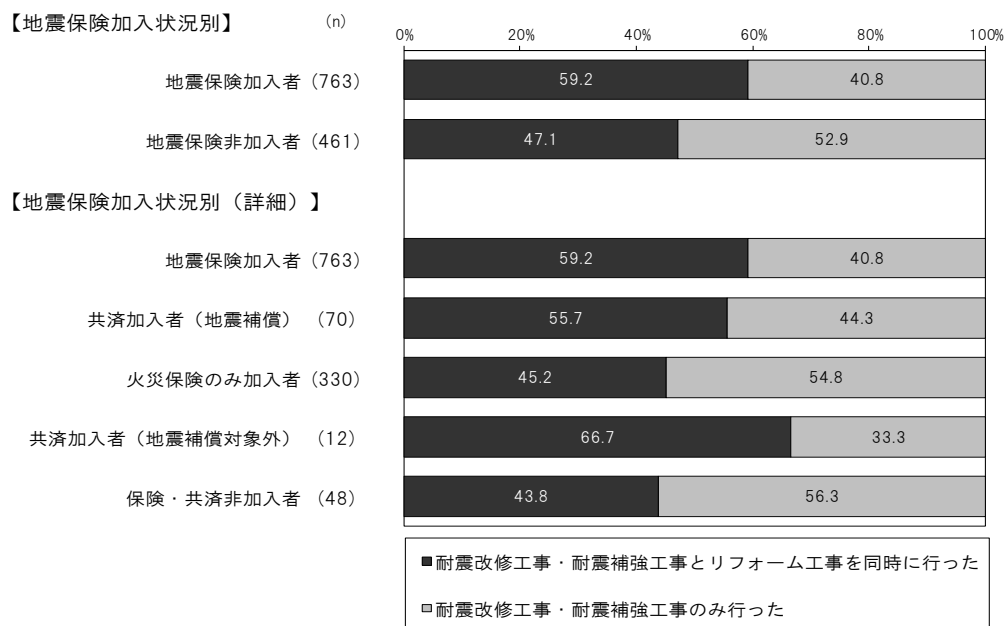


《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

④耐震改修工事・耐震補強工事時のリフォーム工事実施有無

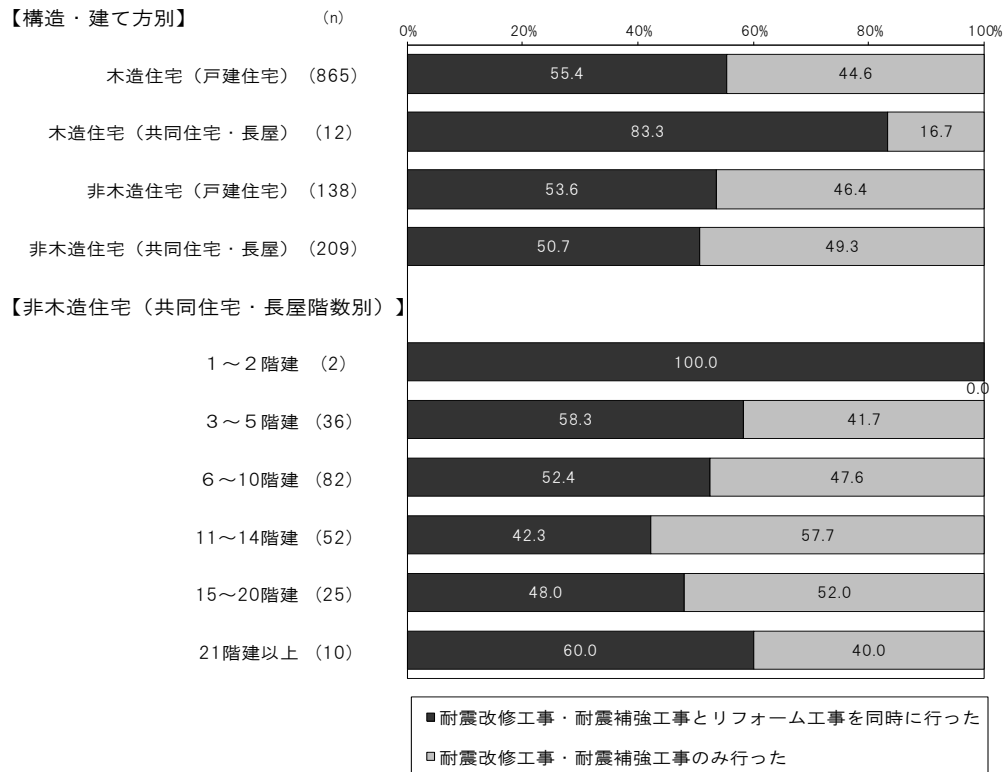
【Q31（耐震改修工事・耐震補強工事の実施有無）で、「壁の新設・補強」「筋かい・ブレースによる補強」「基礎の補強」「金具による補強」「その他の工事」と回答した人に】

Q34. 耐震改修工事・耐震補強工事をした際、お住まいのリフォーム工事（増改築や改修工事）も同時に行いましたか。（ひとつだけ）



耐震改修工事・耐震補強工事を施工した方に、リフォーム工事を同時に実施したかを質問した。「耐震改修工事・耐震補強工事とリフォーム工事を同時に行った」の比率は、地震保険加入者が59.2%、非加入者が47.1%である。

《参考》耐震改修工事・耐震補強工事の際のリフォーム工事実施有無を
住居建物の構造・建て方・階数別に集計



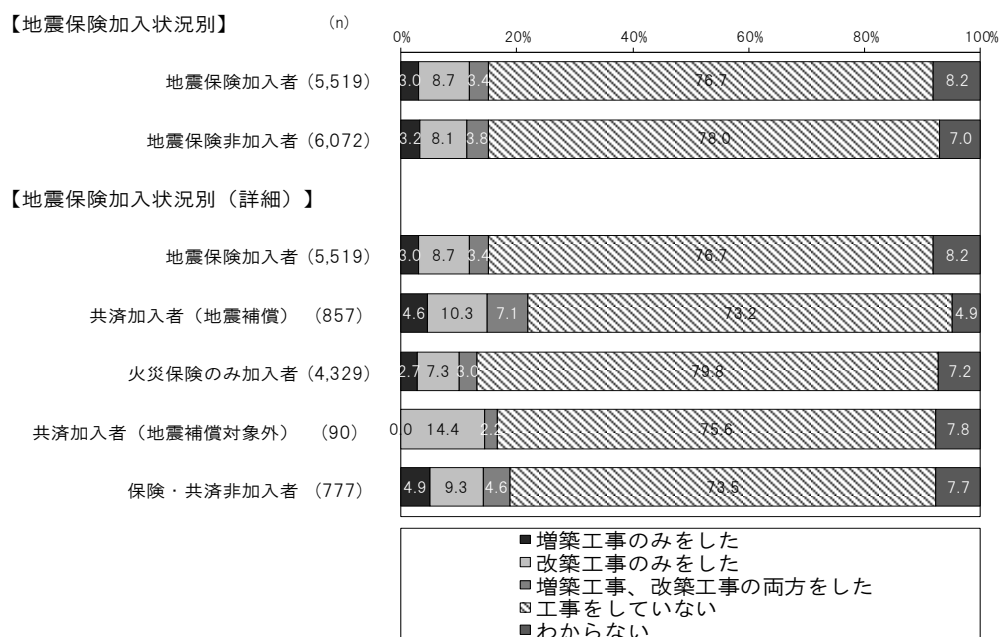
《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。サンプル数が少ない区分が多い点に留意する必要がある。

(14) 増築工事・改築工事

【Q8（建て方）で「一戸建く持ち家」「長屋建く持ち家」「共同住宅（マンション等）＜持ち家＞」と回答した人に】

Q35. あなたの住んでいる住居建物は増築工事や改築工事を行いましたか。

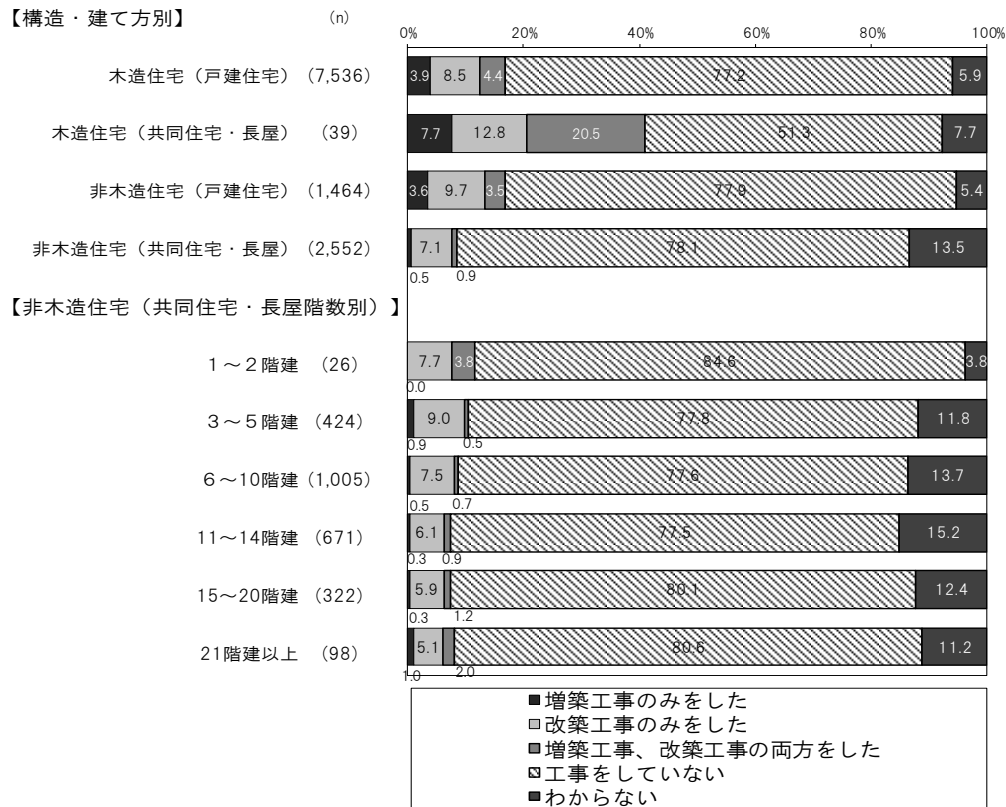
ただし、耐震改修工事・耐震補強工事を除いてお答えください。（ひとつだけ）



『持ち家』の居住者に、住居建物の増築工事・改築工事の実施状況を質問した。地震保険加入者・非加入者ともに「工事をしていない」が最も高く、地震保険加入者は76.7%、非加入者は78.0%となっている。いずれの区分においても「改築工事のみをした」が次いでいるが、1割を下回る。

地震保険非加入者を詳細にみると、共済加入者（地震補償対象外）では「改築工事のみをした」が14.4%となっており、他の区分をやや上回る。

《参考》増築工事・改築工事の実施有無を住居建物の構造・建て方・階数別に集計

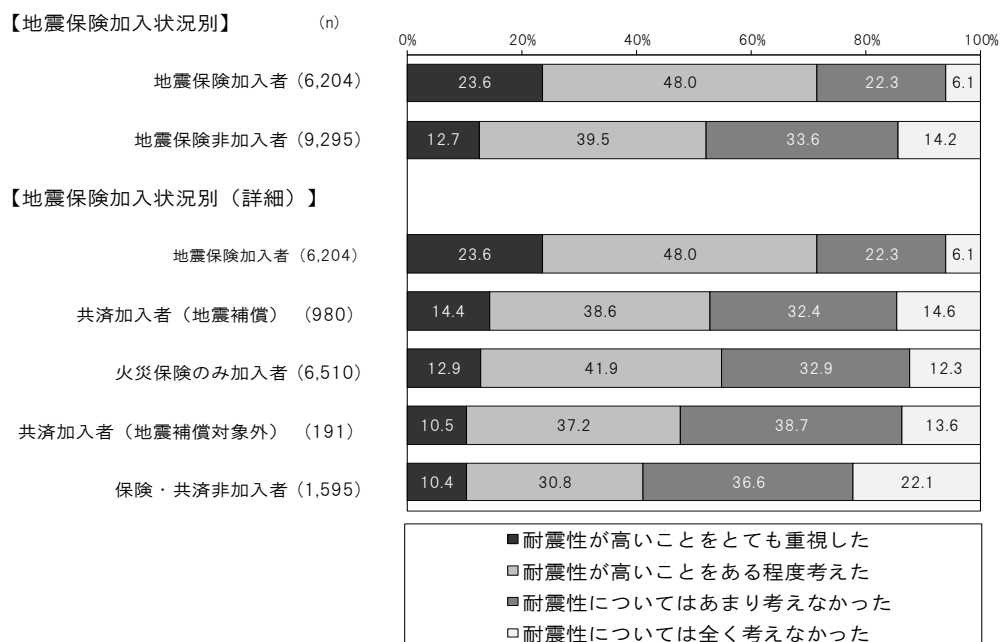


《参考》は、構造・建て方・階数別に集計した結果である。非木造住宅（共同住宅・長屋）は「工事をしていない」が78.1%となっており、他の区分をやや上回る。

非木造住宅（共同住宅）について建物階数別にみると、いずれの区分においても「工事をしていない」が8割前後を占める。

(15) 住居建物の建築・選定時の耐震性の考慮

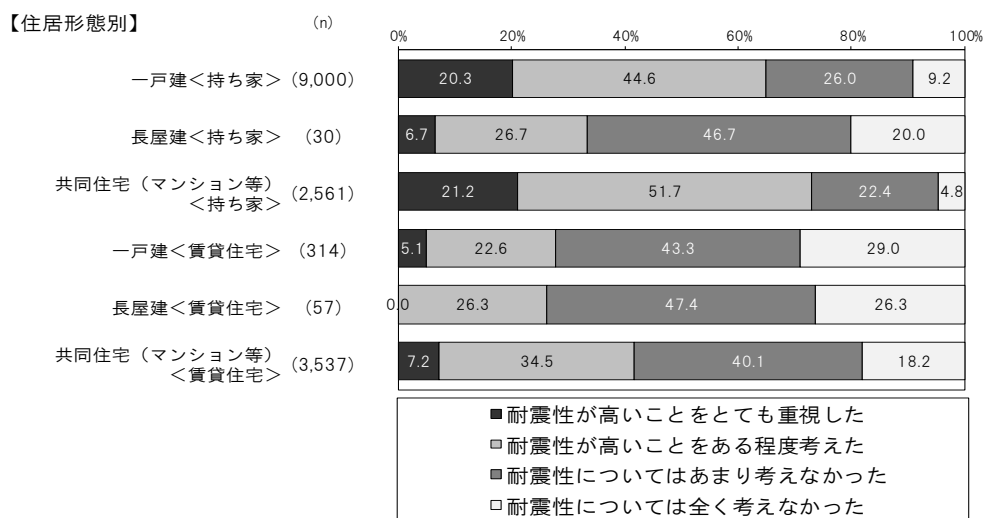
Q27. あなたの住んでいる住居建物を建築または選ばれる際、耐震性をどの程度お考えになりましたか。
(ひとつだけ)



住居建物を建築・選定する際に耐震性をどの程度考慮したかを質問した。地震保険加入者では「耐震性が高いことをとても重視した」と「耐震性が高いことをある程度考えた」を合わせた『耐震性を考慮した（計）』が71.6%（＝23.6%＋48.0%）であるのに対し、非加入者では52.2%（＝12.7%＋39.5%）となっており、約19ポイントの差がある。

地震保険非加入者を詳細にみると、保険・共済非加入者では「耐震性については全く考えなかった」が22.1%となっており、他の区分を上回る。

《参考》住居建物選定時の耐震性の考慮を建て方別に集計



《参考》は、建て方別に集計した結果である。

『耐震性を考慮した（計）』の比率は、共同住宅（マンション等）＜持ち家＞が72.9%（=21.2%+51.7%）と最も高く、以下、一戸建＜持ち家＞（64.9%＝20.3%＋44.6%）、の順となっており、持ち家において、半数を超えている。

一方、長屋建＜賃貸住宅＞は26.3%（＝0.0%＋26.3%）と最も低い。